【現代文化学】

講義コード	科目名 専修・科目	講義形態	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
8231001	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	月2	伊藤　憲二		現代文化学1
8231002	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	月2	伊藤　憲二		現代文化学2
8231003	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田　哲治		現代文化学3
8231004	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	金2	伊勢田　哲治		現代文化学4
8231005	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	木2	飯田　豊		現代文化学5
8231006	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	月4	市川　浩		現代文化学6
8231007	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	平岡　隆二		現代文化学7
8231008	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	木4	清水　雄也		現代文化学8
8231009	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	中尾　央		現代文化学9
8231010	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	火2	喜多　千草		現代文化学10
8241001	科学哲学科学史	演習	2	前期	火3	伊藤　憲二		現代文化学11
8241002	科学哲学科学史	演習	2	後期	火3	伊藤　憲二		現代文化学12
8241003	科学哲学科学史	演習	2	前期	金3	伊勢田　哲治		現代文化学13
8241004	科学哲学科学史	演習	2	後期	金3	伊勢田　哲治		現代文化学14
M383001	科学哲学科学史	演習	2	前期	水4	伊勢田　哲治,伊藤　憲二		現代文化学15
M383002	科学哲学科学史	演習	2	後期	水4	伊勢田　哲治,伊藤　憲二		現代文化学16
8931001	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月3	伊藤　遊		現代文化学17
8931002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	藤原　辰史		現代文化学18
8931003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	藤原　辰史		現代文化学19
8931004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	森下　達		現代文化学20
8931005	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	髙木　博志		現代文化学21
8931006	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火4	藤目　ゆき		現代文化学22
8931007	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	髙木　博志		現代文化学23
8931008	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	西山　伸		現代文化学24
8931009	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	松永　伸司		現代文化学25
8931010	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水4	須田　千里		現代文化学26
8931011	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	須田　千里		現代文化学27
8931012	メディア文化学	特殊講義	2	前期	金3,金4	蘆田　裕史,喜多　千草,松永　伸司		現代文化学28
8931013	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火4	福家　崇洋		現代文化学29
8931014	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火3	堀　あきこ		現代文化学30
8931015	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	木下　千花		現代文化学31
8931016	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	木下　千花		現代文化学32
8931017	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火2	喜多　千草		現代文化学33
8931018	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	仁井田　千絵		現代文化学34
8931019	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	仁井田　千絵		現代文化学35
8931020	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月5	岸　政彦		現代文化学36
8931022	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月5	吉田　純		現代文化学37
8931023	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	須藤　瑞代		現代文化学38
8931024	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	安岡　孝一		現代文化学39
8931025	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火2	ROTH, Martin		現代文化学40
8931026	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	市川　浩		現代文化学41
8931027	メディア文化学	特殊講義	2	後期	木2	飯田　豊		現代文化学42
8931032	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月4	村上　衛		現代文化学43
8931033	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	村上　衛		現代文化学44
M431002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月4	安岡　孝一		現代文化学45
M431003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	安岡　孝一		現代文化学46
M431004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	想田　和弘		現代文化学47
8941001	メディア文化学	演習IA	2	前期	金2	喜多　千草		現代文化学48
8941002	メディア文化学	演習IB	2	後期	水3	松永　伸司		現代文化学49
8944003	メディア文化学	演習II	2	後期	金2	河瀬　彰宏		現代文化学50
8944004	メディア文化学	演習II	2	前期	木3	峯村　至津子		現代文化学51
8944005	メディア文化学	演習II	2	後期	木3	峯村　至津子		現代文化学52
8944006	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	中村　健二,塚田　義典,梅原　喜政		現代文化学53
8944011	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	松田　利彦		現代文化学54
8944012	メディア文化学	演習II	2	前期	月2	石川　禎浩		現代文化学55
8944013	メディア文化学	演習II	2	後期	月2	石川　禎浩		現代文化学56
8946001	メディア文化学	演習IIIA	2	前期	水4	喜多　千草,松永　伸司		現代文化学57
8947001	メディア文化学	演習IIIB	2	後期	水4	喜多　千草,松永　伸司		現代文化学58
8948001	メディア文化学	演習IIIC	2	前期	集中	喜多　千草,松永　伸司		現代文化学59
8949001	メディア文化学	演習IIID	2	後期	集中	喜多　千草,松永　伸司		現代文化学60
M432001	メディア文化学	演習	4	通年	水5	喜多　千草,松永　伸司		現代文化学61
8433001	現代史学	特殊講義	2	後期	火3	小野沢　透		現代文化学62
8433002	現代史学	特殊講義	2	前期	木5	箱田　恵子		現代文化学63
8433003	現代史学	特殊講義	2	後期	火4	藤目　ゆき		現代文化学64
8433004	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原　辰史		現代文化学65
8433005	現代史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原　辰史		現代文化学66
8433006	現代史学	特殊講義	2	前期	水2	髙木　博志		現代文化学67
8433007	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	髙木　博志		現代文化学68
8433008	現代史学	特殊講義	2	前期	月4	村上　衛		現代文化学69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8433009	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	村上 衛		現代文化学70
8433010	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	西山 伸		現代文化学71
8433011	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	能川 泰治		現代文化学72
8433012	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷 知可		現代文化学73
8433013	現代史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆		現代文化学74
8433014	現代史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆		現代文化学75
8433015	現代史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二		現代文化学76
8433016	現代史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二		現代文化学77
8433017	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	山口 元樹		現代文化学78
8433018	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	須藤 瑞代		現代文化学79
8433019	現代史学	特殊講義	2	前期	火4	福家 崇洋		現代文化学80
8433020	現代史学	特殊講義	2	前期	金2	小堀 聡		現代文化学81
8433021	現代史学	特殊講義	2	後期	金2	小堀 聡		現代文化学82
8433022	現代史学	特殊講義	2	前期	水2	小野寺 史郎		現代文化学83
8433023	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	野田 仁		現代文化学84
8433024	現代史学	特殊講義	2	後期	火1	石川 亮太		現代文化学85
8433025	現代史学	特殊講義	2	前期	木2	クナウト・ティル		現代文化学86
8433026	現代史学	特殊講義	2	後期	木2	クナウト・ティル		現代文化学87
8433027	現代史学	特殊講義	2	後期	金2	人見 佐知子		現代文化学88
8433028	現代史学	特殊講義	2	後期	月4	市川 浩		現代文化学89
8448001	現代史学	演習II	2	前期	月2	石川 禎浩		現代文化学90
8448002	現代史学	演習II	2	後期	月2	石川 禎浩		現代文化学91
8448003	現代史学	演習II	2	前期	火3	小野沢 透		現代文化学92
8448004	現代史学	演習II	2	前期	水4	塩出 浩之		現代文化学93
8448007	現代史学	演習II	2	前期	月3	松田 利彦		現代文化学94
8448008	現代史学	演習II	2	後期	水2	小野寺 史郎		現代文化学95
8448009	現代史学	演習II	2	後期	火2	塩出 浩之		現代文化学96
M415001	現代史学	演習II	2	前期	金5	駒込 武		現代文化学97
M415002	現代史学	演習II	2	後期	金5	駒込 武		現代文化学98
8452001	現代史学	演習IIIA	2	前期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学99
8452002	現代史学	演習IIIB	2	後期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学100
M412001	現代史学	演習	4	通年	火5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学101

現代文化学1

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	量子の歴史と思想(1):　19世紀から相補性まで										

[授業の概要・目的]

量子物理学（量子力学および場の量子論）は、日常的な直観と鋭く対立する物理理論である。これは20世紀の自然科学においてもっとも大きな変革をもたらした科学理論の一つであり、その社会的影響も絶大で、思想的含意も大きい。この物理学はどのように生まれ、どのように受け入れられてきたのだろうか。19世紀から1930年ごろまでの量子物理学を中心とした自然科学の歴史とその背景をたどりつつ、そこで生じた思想的な問題や、科学史研究における議論を紹介する。

[到達目標]

1930年ごろまでの量子物理学の発展と、それをめぐる思想的な問題を理解する。

[授業計画と内容]

1. イントロダクション：量子物理学の興味深さ
2. 粒子と場をめぐる19世紀の展開
3. 電気工学から電子論へ：電子の「発見」と相対論
4. 工業化と新しい物理学：熱力学と熱輻射、とくに天野清について
5　量子論における離散性の導入の問題：プランク、アインシュタインとトーマス・クーンの問題提起
6. 化学結合論、エックス線、分光学と原子モデル
7. アメリカ科学の勃興とエネルギー保存：コンプトン効果とアインシュタインとボーアの最初の論争から対応原理へ
8. ワイマール文化と非因果性：フォーマン・テーゼについて
9. 観測可能性と直感性：マッハ主義、相対論と行列力学
10. 波動力学と確率解釈：ド＝ブロイ、シュレーディンガー、ボルン
11. 状態、重ね合わせの原理と変換理論：ディラック、ボルン、ヨルダン
12. ハイゼンベルクとボーアの対立から不確定性関係まで
13. ボーアの思想：相補性とその応用
14. ソルベイ会議におけるアインシュタイン＝ボーア論争、コペンハーゲン解釈と計算文化
15. フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

小テスト・宿題　（50%）
レポート1回（50%）

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学2

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	量子の歴史と思想(2)：場の量子論、量子もつれと量子をめぐる思想・哲学										

[授業の概要・目的]

前期開講科目「量子の歴史と思想(1)」を引き継ぎ、この講義の前半では場の量子論と繰り込み理論までの発展を扱う。後半では量子もつれをめぐる議論や、量子力学の解釈をめぐる議論を歴史的にたどり、最後に２０世紀初めから現在に至る量子論に係わる哲学的な議論のいくつかを紹介する。

[到達目標]

量子力学に特徴的な概念や現象、量子力学をめぐる哲学的な議論の歴史的な発展を理解する。

[授業計画と内容]

1. はじめに：量子力学の歴史記述の問題について
2. 統計性：ボース粒子とフェルミ粒子
3. スピン概念にいたる歴史
4. 相対論的電子論の発展：ディラックと仁科芳雄
5. 交換力の歴史：ハイゼンベルク、ハイトラーとロンドン
6. 原子核理論：ハイゼンベルク、湯川秀樹、ミュー中間子の発見
7. 場の量子化とその思想
8. 繰り込み理論と朝永振一郎
9. 統計力学と物性理論の展開
10. 物理的実在と量子力学の完全性：アインシュタインらの議論とボーアの反論
11. 量子もつれ：ベルの不等式とその実験的検証
12. 量子力学と熱力学と時間：ベルクソン、渡邊慧、プロゴジン
13. 量子力学と京都学派：田辺元と西田幾多郎と相補性
14. 量子力学とフェミニズム：相補性からカレン・バラッドの哲学へ
15. フィードバック

[履修要件]

前期開講科目「量子の歴史と思想」（１）」を履修しているか、同程度の理解を持っていること

[成績評価の方法・観点]

小テスト・宿題（50%）
レポート1回（50%）

科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学3

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語及び英語
題目	社会科学の哲学入門 Introduction to Philosophy of Social Sciences										

[授業の概要・目的]

The aim of this special lecture is to introduce philosophy of social sciences. Philosophy of social sciences is a relatively minor field in philosophy of science, but it deals with many fascinating topics such as methodology of social sciences, ontology of society, rationality and relativism and so on. Using a recent textbook by Kei Yoshida, we look at some basic issues in this field.

[到達目標]

To be able to explain basic issues of the field of philosophy of social sciences. To be able to connect ideas in philosophy of social sciences to various social scientific research.

[授業計画と内容]

The lectures will be given in English, and structured according to the textbook (Kei Yoshida, Philosophy of Social Sciences: An Introduction). The textbook is written in Japanese, so a summary of the textbook in English will be provided in the class.

1 What is the point of learning philosophy of social sciences? (1 week)
2 How do social sciences try to capture social phenomena? (2 weeks)
3 What are the method and aim of social sciences? (3 weeks)
4 For what social scientific theories exist? (2 weeks)
5 Are social sciences just one perspective among many? (2 weeks)
6 What is the relationship between cognition and value in social sciences? (2 weeks)
7 What is the relationship between social and natural sciences (2 weeks)
8 Wrap up (1 week)

[履修要件]

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

吉田敬 『社会科学の哲学入門』（勁草書房）

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学4

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	宇宙科学技術社会論 Space science, technology and society										

[授業の概要・目的]

Science, technology and society (STS) is a flourishing interdisciplinary field that deals with various issues that arises between science and technology on the one hand and society on the other. However, space science and technology have been a relatively minor topic within STS, probably because the social relevance of space science and technology have been unclear. The situation seems to be changing rapidly, with various new developments such as private space exploration. This class tries to explore the possibility of STS study of Space science and technology, i.e. space science, technology and society (SSTS).

[到達目標]

To understand what can be the topic of SSTS; to acquire the ability to apply theoretical knowledge in STS to concrete issues in space science and technology.

[授業計画と内容]

The lectures will be given in English, and structured according to the textbook (Kureha and Iseda eds., Let Us Discuss Space Activities Together). The textbook is written in Japanese, so a summary of the textbook in English will be provided in the class.

1 Why should we discuss space activities together?
2 Basic ideas of STS
3 History of space exploration: world
4 History of space exploration: Japan
5 Discussion topic 1: manned moon exploration and romanticism
6 Basic ideas of space ethics
7 Discussion topic 2: space resource development
8 Material significance of space exploration
9 Cultural significance of space exploration
10 Discussion topic 3: Dual use of space technology
11 Issues of science and technology communication
12 Science and technology communication of space exploration
13 Discussion topic 4: Space debris
14 Discussion skills for space exploration
15 wrap-up

[履修要件]

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

呉羽真、伊勢田哲治編 『宇宙開発をみんなで議論しよう』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学5

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学産業社会学部　教授 飯田　豊				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	メディア技術史										

[授業の概要・目的]

「新しい○○が△△を変える」という言い回しが、世の中にはいろいろとある。たとえば、Twitterが政治を変える、ビッグデータが経済を変える、AIが仕事を変える、オンライン授業が教育を変える、マッチングアプリが恋愛を変える、メタバースがコミュニケーションなど、とくにデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。それにともなって、新聞やテレビなどが伝える情報を批判的に読み解くという意味でのメディア・リテラシーだけでなく、インターネットを基盤とするデジタルメディアが遍在する社会を生き抜くための素養を身につけることが、小学校から大学にいたるまで、教育の現場で重視されるようになってきた。

もっとも、新しいメディアの「新しさ」を深く追究しようと思えば、結局のところ、古いメディアとの比較を避けて通ることはできない。新しいメディアをめぐるさまざまな現象に興味をもち、積極的に解釈や分析を積極的に試みることは重要だが、同時に、目の前で起こっていることを近視眼的にとらえるのではなく、過去の事例から学び、現在にいかす思考を身につけることが望ましい。

したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた20世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。

[到達目標]

近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを理解し、それを適切に説明できるようになる。

「メディア」と「技術」の相互関係に対する理解を深め、それを適切に説明できるようになる。

メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論の基礎的な思考法を理解し、それを適切に説明できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下のスケジュールにもとづいて講義を進める。ただし、講義の進捗状況や受講者の理解度などを踏まえて、若干の変更もありうる。

第1回　イントロダクション：メディア技術史とは何か
第2回　技術としての書物：紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答
第3回　写真はどこにあるのか：イメージを複製するテクノロジー
第4回　映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（①光学装置の開発と視覚理論の発展）
第5回　映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（②初期映画）
第6回　音楽にとっての音響技術：歌声の主はどこにいるのか
第7回　声を伝える／技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（①電信と電話）
第8回　声を伝える／技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（②ラジオ）

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

第9回　テレビジョンの初期衝動：「遠く（tele）を視ること（vision）」の技術史（①電子式テレビジョン）
第10回　テレビジョンの初期衝動：「遠く（tele）を視ること（vision）」の技術史（②機械式テレビジョン）
第11回　ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に（①初期CATVの考古学）
第12回　ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に（②ポストメディアとしてのミニFM）
第13回　文化としてのコンピュータ：その「柔軟性」はどこからきたのか
第14回　開かれたネットワーク：インターネットをつくったのは誰か
第15回　誰のための技術史？：アマチュアリズムの行方

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60点）、平常点（40%）により評価する。
レポートについては、メディア技術史に関する基礎的な知識に加えて、メディア論の思考法について、総合的な理解ができているかどうかを評価する。事象を論理的に説明できているかどうか、要領よくまとめて書けているかどうか、自分の考えを述べることができているかどうかを重視する。
平常点については、コミュニケーションペーパーの提出を求め、その内容にもとづいて参加状況の評価をおこなう。

[教科書]

飯田豊編著 『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方［改訂版］』（北樹出版、2017年）
ISBN:978-4-7793-0532-0

[参考書等]

（参考書）
水越伸・飯田豊・劉雪雁 『新版 メディア論』（放送大学教育振興会、2022年）（2022年3月刊行予定。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に教科書の該当部分を一読しておいてください。また、授業で使用するプリントは事前に配布することがあるので、当日までに一読しておき、忘れずに持参してください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学6

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	広島大学人間社会科学研究科 教授 市川　浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目											

[授業の概要・目的]

「冷戦（東西冷戦）とは，第2次世界大戦後，アメリカ合衆国とソヴィエト社会主義共和国連邦，およびその同盟国の間で展開された，大規模な核軍拡競争をともなう政治的・軍事的対立をいう．……社会思想や文化的価値観までを含む，社会生活の多様な側面を巻き込んだ点にそれまでの単なる大国間の勢力圏争いとの相違があった」（丸善『科学史事典』564ページ）．米ソ両国では，夥しい量の研究資金，研究手段と研究者が核開発などに関連した諸分野に恒常的に注ぎ込まれた．アメリカにおける冷戦期科学，および，その前史とも言うべき第2次世界大戦期科学の経験については，これまでさまざまに論じられてきたが，ソ連のそれについて語られることは希であった．本講義では，その前史を含め，ソ連における科学発展を，おもにその社会的側面から辿ってゆく．その際，冷戦期における軍民両方の核開発を相対的な中心として論じたい．

[到達目標]

本講義を履修し，学修目的を達成した結果，“ソヴィエト・サイエンス”の歴史的経験の視点から現代科学がどのようにして形成されていったのか，現代科学史，ひいては現代史全般に関する理解をよりいっそう豊かにすることができる．

[授業計画と内容]

1．　ガイダンス：1998年の問い―“冷戦型科学・技術体制”は克服できるか？―
2．　ロシアの近代化と科学：サンクト=ペテルブルグ帝室科学アカデミー
3．　“科学の参謀本部”：ヴラジーミル・ヴェルナツキーとソ連邦科学アカデミー
4．　イデオロギーと科学：“優生学”，ナチズム，ルィセンコ“学説”
5．　原爆開発への道：原子核物理学の展開と各国における初期核開発
6．　ＰＤＣ(エル・デー・エス)…“ロシアは自力でやる！”：ソ連の初期核兵器開発
7．　“冷戦気候（Cold War Climate）”：動員される科学者，イデオロギー的圧迫
8．　核戦略の“トライアド”：ソ連におけるミサイル開発と原子力潜水艦建造
9．　放射能の影：「ビキニ事件」と米ソ“サイエンス・ウォー”
10．ソ連版“平和のための原子”：オブニンスク原子力発電所（1954年）
11．経済停滞とエネルギー危機：原子力発電所建設の疾走
12．東側の原子力：原子力分野における“同盟”諸国との“協力”
13．“越境するソヴィエト・サイエンス”：日本への影響
14．　帰結：チェルノブィリ原子力発電所，1986年4月26日午前１時23分
《定期試験》
15．フィードバック

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

3回の小レポート（各20%），定期試験（40%）で成績評価をおこなう．受講生の本講義に取り組む姿勢（平常点
）を加味する場合もある．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
とりあえず，市川浩「第Ⅳ巻６: 科学――〝強大なソヴィエト連邦〟の背後に」（編集委員会［中嶋毅・浅岡善治］編『ロシア革命とソ連の世紀　第4巻：人間と文化の革新』岩波書店，2017年．177-199ページ）；市川 浩『ソ連核開発全史』（ちくま新書，2022年）を参考文献とする．その他参照してほしい文献は授業中に示す．

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に示す．

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学7

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　平岡　隆二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東西宇宙観の出会いと交流										

[授業の概要・目的]

江戸時代の日本に伝来した西洋と中国の天文学・宇宙論知識をとりあげ、その理解や利用のあり方を考察することにより、天文学史・宇宙論史・日本文化史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の実地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。

[到達目標]

現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。

[授業計画と内容]

１．本授業の位置づけ
２・３．近世日本天文学とその史料
４・５．キリシタンと科学伝来
６・７．西学書の渡来と影響
８・９．江戸後期の天文暦学と蘭学
１０～１４．京大所蔵史料の調査・整理
１５．フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（50%）とレポート（50%）。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。

[教科書]

使用せず、プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
渡辺敏夫 『近世日本天文学史　上・下』（恒星社厚生閣、1986-87年）
嘉数次人 『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』（ちくま書房、2016年）
その他、授業中にも適宜紹介します。

（関連ＵＲＬ）

http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業の実施形態（対面・オンライン・実地調査等）について、随時最新情報を確認すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学8

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 清水　雄也				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	因果の哲学										

[授業の概要・目的]

本講義では，因果に関する哲学的問題について論じる．特に，現在の科学哲学において標準説（の1つ）となっている介入主義的理論を中心に，因果概念の一般理論，因果関係の存在論的特性，因果言明の優劣比較，因果選別の理論について検討する．因果そのものに対する哲学的関心を持つ者だけでなく，科学・哲学における因果概念の利用や，法的・道徳的な責任と因果の関係に関心を持つ者の受講も歓迎する．

[到達目標]

・因果概念の一般的特徴づけを目指す諸学説の眼目と問題点について理解する．
・因果関係の存在論的特性に関する諸問題について理解する．
・因果言明の優劣比較に関する諸論点について理解する．
・因果選別に関する理論的問題と諸学説について理解する．

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画にしたがって講義を進める．ただし，進捗に応じて多少変更する場合がある．

01. イントロダクション

I. 因果概念の理論
02. 規則性と確率連動
03. 可操性と行為者性
04. 反事実と可能世界
05. モデルと介入主義

II. 因果関係の特性
06. 水準と開放性
07. 仲介と階層性
08. 条件と派生性

III. 因果言明の優劣
09. 安定性
10. 均整性
11. 特定性

IV. 因果選別の理論
12. 必要性と十分性
13. 規範性と正常性
14. 適合性と偶然性

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

15. まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートにより評価する．到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが，独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

復習：講義で扱われた問題について自ら考察する．

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学9

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science					担当者所属・職名・氏名	南山大学人文学部　准教授 中尾　央				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人間行動進化学										

[授業の概要・目的]

この講義の目的は人間行動進化学に関して，基礎的・発展的知識を提示することにある．特に人文学（考古学や人類学）のデータをどのようにして文化進化研究に活かしていくのかを考察する．

[到達目標]

・人間行動進化学の基本的な発想を理解する．
・考古学や人類学など，人文学のデータが文化進化研究にどのように活かせるかを理解する．

[授業計画と内容]

基本的に以下に従って講義を進める．ただし進捗や理解度に応じて順序などを変えることがある．

1. 進化論と自然選択
2. 利他性の進化：血縁選択と直接互恵性
3. 利他性の進化：間接互恵性と強い互恵性
4. 利他性の進化：偏狭な利他性
5. 道徳性の進化：自己家畜化とトマセロのモデル
6. 罰の進化
7. 教育の進化
8. 文化進化：理論的基礎
9. 文化進化：実験研究
10. 文化進化：フィールド研究
11. 人類学・考古学データを用いた文化進化研究：先史時代の争い（縄文）
12. 人類学・考古学データを用いた文化進化研究：先史時代の争い（弥生）
13. 人類学・考古学データを用いた文化進化研究：先史時代の争い（世界）
14. 人類学・考古学データを用いた文化進化研究：土器・人骨から見た弥生時代の文化進化
15. 人類学・考古学データを用いた文化進化研究：人骨・古墳サイズ・住居址から見た古墳時代の文化進化

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートの内容（100%）によって評価する．

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

アレックス・メスーディ 『文化進化論:ダーウィン進化論は文化を説明できるか』（NTT出版）ISBN:9784757143302

田村光平 『文化進化の数理 紙版』（森北出版）ISBN:978-4-627-06271-9

長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久 『進化と人間行動 第2版』（東京大学出版会）ISBN:978-4130622301

その他の参考書は授業中に随時紹介する.

[授業外学修（予習・復習）等]

事前の予習はとくに不要.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学10

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	コンピューティングの技術文化史										

[授業の概要・目的]

本特殊講義では、情報学の古典的文献を取り上げながら、各年のテーマに沿って、現在のコンピューティングのスタイルがどのようにできあがってきたのか、それに関わった人々は、どのような技術的背景・知的状況の中で思考し、技術的なアイデアを生み、社会の中で実装につなげてきたのかを考えます。

本年度のテーマは「戦争とコンピュータ」です。

扱う資料はまずは文献ですが、近過去を対象にしているため、映像・音声資料、インタビュー記録、その他のデジタルデータなども史料となりますし、文献資料の中には技術論文、設計図なども含まれます。

[到達目標]

・現在進行形で日々変化しているコンピューティング環境のありようについて、歴史的な理解をもつことで大局的な理解ができるようになる。

[授業計画と内容]

1. オリエンテーション
2. 軍事研究をめぐる近年の議論の整理①
3. 軍事研究をめぐる近年の議論の整理②
4. 暗号解読とコンピュータ
5. Giant Brainの構築
6. 英米以外の1940年代から1960年代までのコンピュータ開発
7. 人間機械混成系という概念
8. 全米防空網SAGE
9. 航空宇宙開発とコンピュータ
10. Star Wars構想とCPSR①
11. Star Wars構想とCPSR②
12. コンピュータ・ネットワークの誕生
13. コンピュータ・ネットワークの発展
14. 人工知能と戦争
15. フィードバック

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：授業前課題や授業内課題への参加（30点）、レポート課題の内容（70点）

[教科書]

プリント等を配布する予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次回内容に関する授業前課題への回答（所要時間15分程度）
配布資料の読解（英語文献を含む。所要時間30分／件）
レポート作成（3時間程度）

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトを作成

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学11

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	学術雑誌の科学史的研究										

[授業の概要・目的]

学術雑誌は現代の知識生産においてきわめて重要な役割を果たしていると同時に、多くの問題に直面している。その仕組みが歴史的にどのように形成され、現在の形になったのかということは今日における科学史のもっとも重要なテーマの一つである。この演習では学術雑誌に関する英語圏の重要な著作を取り上げ、このテーマの研究状況を概観することを目指す。毎回、論文一本ないし本の章一つ程度の英文を読み、担当者の発表の後に、討論を行う。

[到達目標]

科学史およびその周辺分野における学術雑誌に関する主要著作において、これまでどのような題材が扱われ、どのような研究手法が用いられ、どのような問題が提起されてきたのかについて理解する。

[授業計画と内容]

1.イントロダクションとガイダンス：本セミナーの狙いと担当箇所の分担
2.古典的社会学的研究： Harriet Zuckerman and Robert Merton,“ Patterns of Evaluation in Science: Institutionalization, Structure, and Functions of the Referee System, ” Minerva 9 (1971): 66-100.
3. Annalen der Physik：ルイス・パイエンソン「相対論における物理的意味：マクス・プランクによる『物理学年報』の編集, 1906年から1918年」板垣良一ほか訳『若きアインシュタイン：相対論の出現』（共立出版, 1985）, pp. 249-276.
4.同僚評価のSTS的研究：Daryl E. Chubin and Edward J. Hackett, Peerless Science: Peer Review and U. S. Science Policy (State University of New York Press, 1990)から、Chapter 4.
5. Nature (1)：Melinda Baldwin, Making“ Nature ”: The History of a Scientific Journal (The University of Chicago Press, 2015) , Introductionと Chaps 1-4から１章
6. Nature (2)：Baldwin (2015), Chaps 5-8から１章と Conclusion.
7. Physical Review: Roberto Lalli,“‘ Dirty work, ’ but someone has to do it: Howard P. Robertson and the refereeing practices of Physical Review in the 1930s, ” Notes and Records: The Royal Society Journal of the History of Science 70 (2016): 151-174.
8. 19世紀英仏の学術雑誌(1)：Alex Csiszar, The Scientific Journal: Authorship and the Politics of Knowledge in the Nineteenth Century (The University of Chicago Press, 2018), Introductionと Chaps 1-3から１章.
9. 19世紀英仏の学術雑誌(2)：Csiszar (2018), Chaps 4-6から１章と Conclusion.
10.ロイヤル・ソサイエティ(1): Aileen Fyfe, Noah Moxham, Julie McDougall-Waters, and Camilla Mørk Røstvik, eds., A History of Scientific Journals: Publishing at the Royal Society, 1665-2015 (UCL Press, 2022), Introductionと Part Iから１章
11.ロイヤル・ソサイエティ (2): Fyfe et al. (2022), Part II から１章
12.ロイヤル・ソサイエティ (3): Fyfe et al. (2022), Part IIIから１章
13.ロイヤル・ソサイエティ (4): Fyfe et al. (2022), Part IVから１章
14.ロイヤル・ソサイエティ (5): Fyfe et al. (2022), Part Vから１章と Conclusion
15.フィードバック

科学哲学科学史(演習)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業参加・担当箇所の発表）　（50%）
レポート1回（50%）

[教科書]

授業で使用するテキストは，担当教員が用意して配布する.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学12

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践										

[授業の概要・目的]

科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。

[到達目標]

科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。

[授業計画と内容]

この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の６回目と１４回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。

1.ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール
2.理論：研究者集団の科学史的分析: Kohler,“ Moral Economy ”
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書
レポート課題１発表
3.理論：精度の社会構築: MacKenzie,“ Nuclear Missile Testing
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他
4.理論：社会構築主義を超えて: Pickering,“ The Mangle of Practice ”
実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）
5.理論：「パラダイム論」を超えて: Galison,“ Trading Zone ”
実践：リーディングとノートテイキィングの技法
課題１レポート提出期限
6.研究計画書ワークショップ
7.理論：標準の科学論: Schaffer,“ Late Victorian Metrology ”
実践：書評と査読
レポート課題２発表
8.理論：実験の科学史: Shapin,“ House of Experiment ”
実践：アーカイブズ調査／資料撮影とその整理
9.理論：実験室とANT: Latour,“ Give Me a Laboratory ”
実践：新聞データベースの利用
10.理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer,“ Institutional Ecology ”

科学哲学科学史(演習)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(演習)(2)

実践：学会発表とスライド
11.理論： 非西洋科学: Hart,“ On the Problem of Chinese Science ”
実践：ライティングの技法とバックアップ
12.理論：ジェンダーと科学表象: Martin,“ Toward an Anthropology of Immunology ”
実践：スタイルと論文投稿と改稿
13.理論：フェミニスト科学論: Barad,“ Agential Realism ”
実践：科学史における研究倫理
レポート課題２提出期限
14.書評／査読報告ワークショップ
15.フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業参加）　（50%）
レポート２回（50%）

[教科書]

授業で使用するテキストは，担当教員が用意して配布する．

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学13

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	数学の存在論										

[授業の概要・目的]

数や数式などの数学的対象は実在するだろうか、また実在するとしたらどのような形で存在するのだろうか。これは古くから認識されてきた問題でありながら、いまだに満足のいく解答が存在しない。この授業では、数学の哲学に関するハンドブックを利用して、自然主義、唯名論、構造主義など数学の存在論についての主要な立場について理解を深める。

[到達目標]

数学の存在論に関する主要な考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。

[授業計画と内容]

以下のテキストの存在論に関するいくつかの章を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。
Shapiro Stewart ed. (2005) The Oxford Handbook of Philosophy of Mathematics and Logic. Oxford University Press.

基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。

授業の進行は以下のとおり。

イントロダクション(1回）
学生による発表担当
Resnik "Quine and the web of belief" (3回）
Maddy "Three forms of naturalism" (2回）
Weir "Naturalism reconsidered" (2回）
Chihara "Nominalism" (3回）
Hellman "Structuralism" (３回）
まとめ(1回）

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

科学哲学科学史(演習)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

発表の担当と期末のレポートを各５０％で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかが評価基準になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学14

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	実験哲学とは何か										

[授業の概要・目的]

実験哲学は、これまでの哲学において特にデータをとることなく主張されてきた事柄について、質問票などに基づく心理学や認知科学の手法を用いて実験的にアプローチしようという近年の潮流を指す。こうした方法論の有効性や適用範囲は哲学者たち自身の論争の対象となってきた。この授業では、実験哲学をめぐる原理的なテーマについての論争と具体例についてのレビューを読むことで実験哲学についてどういうことが問題となるのかをともに考察していく。

[到達目標]

実験哲学について何が問題になっているかを理解し、哲学者たちの立場を批判的に検討できるようになる。

[授業計画と内容]

以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。

Sytsma, J. and Buckwalter, W. eds. (2016) A Companion to Experimental Philosophy. Blackwell.
具体的には以下の論文を候補として考えている
Stich and Tobia "Experimental philosophy and the philosophical tradition"
Williamson "Philosophical criticisms of experimental philosophy"
Knobe "Experimental philosophy is cognitive science"
Chan, Deutsch and Nichols "Free will and experimental philosophy"
Sarkissan "Aspects of folk morality: objectivism and relativism"
Pinillos "Experiments on contextualism and interest relative invariantism"
Machery "Experimental philosophy of science"

基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。

授業の進行は以下のとおり。

イントロダクション(1回）
学生による発表担当（13回）
まとめ(1回）

科学哲学科学史(演習)(2)へ続く↓↓↓

科学哲学科学史(演習)(2)

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

発表の担当と期末のレポートを各５０％で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかが評価基準になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学15

科目ナンバリング	G-LET32 7M383 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治 文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										

[授業の概要・目的]

科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．

[到達目標]

論文作成のための基礎的な力を身につける．

[授業計画と内容]

授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第１回～第１５回）
研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う．
発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席および発表等）によって評価する．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
なし

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学16

科目ナンバリング	G-LET32 7M383 SJ34										
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治 文学研究科　准教授　伊藤　憲二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	科学哲学科学史セミナー										

[授業の概要・目的]

科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．

[到達目標]

論文作成のための基礎的な力を身につける．

[授業計画と内容]

授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第１回～第１５回）
研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う．
発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席および発表等）によって評価する．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
なし

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学17

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都精華大学マンガ学部　准教授 伊藤　遊				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	マンガ研究ことはじめ　方法論を学ぶ										

[授業の概要・目的]

現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。
そうした認識に対応する形で、戦後、様々な立場からの「マンガ評論／研究」が試みられてきた。
本授業では、マンガを学術的な研究対象とするにあたっての、特に人文・社会学的な方法論を、具体的なマンガ研究論文の講読等を通じて紹介することを目的とする。
形式は、担当教員による講義、および受講者によるマンガ研究論文の講読。
マンガに関する卒業論文執筆や学会発表など、具体的な課題を抱えている場合は、それらのブラッシュアップの場をすることもできる。

[到達目標]

具体的なマンガ研究の論文を幅広く読むことで、ポピュラー文化を対象とする研究の文脈や方法論を理解する。

[授業計画と内容]

第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。
第2回～第3回：担当教員による講義。学術研究全体におけるマンガ研究の位置付けを解説した上で、マンガ研究の諸方法論を、具体的な研究書などを紹介することで概観する。
第4回：京都国際マンガミュージアムの見学
第5回～第15回：指定されたマンガ研究の論文の講読。担当者が論文の内容を紹介する形で発表、参加者全員でディスカッションする。

[履修要件]

特にないが、1度以上、京都国際マンガミュージアムの見学やイベント参加をしてもらう。

[成績評価の方法・観点]

平常点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

論文の講読においては、当該論文をあらかじめ熟読してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学18

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食をめぐる研究の方法
2　明治大正期の食
3　アジア太平洋戦争までの食
4　戦後の食
5　牛乳の歴史学
6　品種改良の歴史学
7　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末にレポートを課す。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学19

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食糧戦争としての第一次世界大戦
2　有機農業の歴史
3　毒ガスと農薬の歴史
4　トラクターの歴史
5　戦時期の農村女性たち
6　食糧戦争としての第二次世界大戦
7　フィードバック

[履修要件]

前期の授業を受講しているものとして授業を進める。

[成績評価の方法・観点]

講義の終わり頃に筆記試験を課す予定

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

現代文化学20

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	創価大学文学部　講師 森下　達				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	初期手塚治虫作品を論じる――「物語」と「表現」の絡み合いを軸に――										

[授業の概要・目的]

戦後日本のマンガは、表現様式の点で戦前・戦中期のそれを大きく更新し、さまざまな物語を描きうる表現領域として確立していった。本授業では、戦後日本を代表するマンガ家・手塚治虫の1940年代後半から50年代の作品を精読することを通じて、作品を支える表現様式がどのように変容しているのかを確認し、さらに、その変容が物語内容の変化といかに関係しているのかを分析していく。分析にあたっては、児童文学や近代文学、映画といった既存の物語メディアから、マンガが何を取りこんでいったのかにも焦点をあてる。このような作業を通じて、マンガ表現自体を問題にする方法論を身につけるとともに、他の表現メディアとの比較など柔軟な姿勢と視野の広さを獲得することが本授業の目的である。

[到達目標]

前近代の文化や、近代以降の文学およびヴィジュアル文化などとも対比する形で、自分なりの視点で現代のマンガ文化を論じられるようになることが本授業の到達目標である。近代の物語文化に対する理解を深めるとともに、物語と表現の関係に目を向ける力を獲得することは、マンガだけでなくほかのさまざまな表現文化を論じる際にも効力を発揮するだろう。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス：手塚治虫を論じる視点
第2回　手塚治虫『地底国の怪人』（1）：何が新しかったのか
第3回　手塚治虫『地底国の怪人』（2）：戦前・戦中期の作品と比較して
第4回　手塚治虫『地底国の怪人』（3）：物語の構造を考える
第5回　手塚治虫『メトロポリス』（1）：主題の深化
第6回　手塚治虫『メトロポリス』（2）：表現様式の安定
第7回　手塚治虫『メトロポリス』（3）：その後の作品との関係
第8回　手塚治虫『38度線上の怪物』（1）：リメイクを論じるには
第9回　手塚治虫『38度線上の怪物』（2）：他の表現メディアの影響
第10回　手塚治虫『38度線上の怪物』（3）：マンガでドラマを描くということ
第11回　手塚治虫『罪と罰』（1）：「映画」的手法を考える
第12回　手塚治虫『罪と罰』（2）：モンタージュと「内面」表現
第13回　手塚治虫『罪と罰』（3）：原作との変更点について
第14回　ボーナストラック：つげ義春「ある一夜」を手塚作品と比較する
第15回　まとめ：マンガにおける「物語」と「表現」
※受講生の興味関心に応じ、授業内容を多少変更する場合がある。

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60%。授業の視点を踏まえて、自分なりにマンガ作品を論じるもの。問いを提示し、適切な根拠を揃えてそれに答えを出すことを求める）、毎回の授業への参加（40%。授業内容を理解し、積極的に発言できているかどうかをもとに判断する）をもとに評価します。

[教科書]

レジュメを作成、配布します。
また、版は問いませんが、授業で扱うマンガは読了した上で授業に臨んでもらいたいと考えています。取り扱う作品は以下のとおり。
・手塚治虫『地底国の怪人』（1948年）
・手塚治虫『メトロポリス』（1949年）
・手塚治虫『38度線上の怪物』（1953年）
・手塚治虫『罪と罰』（1953年）
・つげ義春「ある一夜」（1958年）
なお、手塚作品に関しては講談社の「手塚治虫文庫全集」が、つげ作品に関しては筑摩書房の「つげ義春コレクション」（「ある一夜」は『四つの犯罪／七つの墓場』所収）か「つげ義春大全」（「ある一夜」は『第4巻　ゆうれい船長／不思議な手紙』所収）が入手しやすいです。

[参考書等]

（参考書）
森下達 『ストーリー・マンガとは何か　手塚治虫と戦後マンガの「物語」』（青土社、2021年）
ISBN:978-4-7917-7416-6（授業内容のもととなる書籍です。）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：配布されたプリントやテキストなどについて、授業で指示されたぶんをきちんと読んでくること。わからない箇所等についてはそのままにせず、自身で調べて授業に臨む。内容についても、漫然と読むのではなく、自分がどう読んだのかをきちんと言葉にする準備をしておくこと。（60分）

復習：授業での学びを踏まえて、扱った作品を今一度読み直し、自身の読みを深めること。（30分）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学21

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近代天皇制と伝統文化										

[授業の概要・目的]

「近代天皇制と伝統文化」と題する本講義においては、近代国民国家とともに成立した近代天皇制（天皇をいただく国家の制度）が、同時に、前近代以来の文化を再構築した「伝統文化」を不可欠としたことを論じる。

　ここでいう「伝統文化」とは、前近代に起原しながらも、近代において欧米/中国との関係性において形成されてきたものである。大嘗祭・陵墓・国花としての桜・古社寺・文化財・古都・郷土愛などを俎上に上げる。また近代天皇制の伝統文化によって、第一次世界大戦後に先進国のなかで少数となった君主制を存続できる大きな原因となったこと、20世紀に地方城下町では藩主に帰依した地方の郷土愛が天皇を重んじる愛国心に包摂されそれが社会の大きな基盤となったこと、そして天皇制における「伝統文化」が極めて現代的な政治課題であること、を論じる。近代天皇制の特質として、記紀神話に基づく、天照大神の血統に代々の天皇が存在する神学についても明らかにする。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「近代天皇制と伝統文化」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・近代天皇制と「史実と神話」
・19世紀の大嘗祭
・20世紀の大嘗祭
・19世紀の陵墓
・20世紀の陵墓
・伝統文化の創造と近代天皇制
・皇室の神仏分離と泉涌寺
・近代皇室の仏教信仰
・奈良女高師の修学旅行と奈良・京都
・奈良女高師の修学旅行と伊勢・東京
・桜の近代―弘前・京都
・桜の近代―帝国
・郷土愛と愛国心をつなぐもの
・20世紀の日本の文化財保護と伝統文化
・現地保存の歴史と課題

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制の文化史的研究―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「近代天皇制と伝統文化」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学22

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学人間科学研究科　教授 藤目　ゆき				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	占領軍被害の研究										

[授業の概要・目的]

連合国占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合国占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い歳月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。

[到達目標]

(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。

(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。

(3)朝鮮戦争時代の日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ることによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。

[授業計画と内容]

授業は以下の計画で進める。講義形式の授業と、授業内で指定した文献に関するディスカッション等を組み合わせながら進める予定である。

各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学ぶ（全15回）。

１．研究の意義と方法
２．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害
３．占領軍労務動員と労働災害死傷
４．暴行・傷害・殺人
５．軍事演習被害・朝鮮戦争被害
６．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義

[履修要件]

特になし

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）
適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容に関わる文献を授業外で読んでくること。文献リストについては授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学23

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都らしさ」の近代と遊廓・花街										

[授業の概要・目的]

近代京都のイメージとして、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期に南蛮憧憬とともに、〈合わせ鏡〉のように祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることには、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮があった。後半には、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娼妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。また娼妓の性病快癒や年季明けへの願いに向き合う、民衆宗教・金光教の布教に迫る。民衆史の方法として、京都や姫路の教師が娼妓の悩み・願いを書き留めた「祈念帳」を分析する。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・明治維新と京都
・1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」
・1895年の平安遷都千百年紀念祭と平安時代
・1907年、与謝野寛・木下杢太郎・北原白秋・吉井勇『五足の靴』
・1917年、入江波光による延命寺「キリシタン墓碑」の発見
・1920年、茨木・千提寺・ザビエル画像の発見
・大正期、南蛮ブームと南蛮文化研究
・「祇園もの」の文学
・鴨川・東山の周縁性―性・差別・死
・近代京都の花街・遊廓
・大衆社会と売買春の盛行
・民衆宗教としての金光教
・金光教と歌舞伎・映画（マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら）
・金光教と遊廓・花街布教
・民衆の肉声に迫る「祈念帳」の史料性

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）
高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学24

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大学文書館　教授　　西山　伸				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都大学百二十五年史」を読む　2										

[授業の概要・目的]

1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、戦後改革から現在までを対象とする。

[到達目標]

現代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本現代史資料を読み込む能力を養う。

[授業計画と内容]

1　ガイダンス
2　戦後高等教育改革
3　新制京都大学の発足
4　京都大学における一般教育
5　占領期の学生
6　高度経済成長下の拡大
7　京大紛争（1）
8　京大紛争（2）
9　諸問題への対応と学生生活
10　教育・研究体制の再編
11　大学改革（1）
12　大学改革（2）
13　国立大学法人京都大学の発足
14　京都大学の現在
15　まとめ（フィードバック）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。

[教科書]

使用しない

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学25

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「ダサい」の美学										

[授業の概要・目的]

美的判断は、伝統的に狭義の美学（芸術哲学を除く、「美的なもの（the aesthetic）」についての哲学）の中心にあるトピックである。「美的判断とは何か」という問いにごく大雑把に答えるなら、「趣味（美的センス）という独特の能力を行使する必要のある判断である」と言ってもいいかもしれない。

美的判断は基本的にはモノ（物体や出来事）に対する判断だが、美的センスの行使が必要であるという前提があることで、場合によっては、そのモノを選んだ人の能力に対する評価（たとえば「センスが良い／悪い」といった評価）を含意することがある。「…はおしゃれだ」や「…はダサい」といった美的判断は、そのような能力についての暗黙のコメントを含むことが多い美的判断の典型だろう。

この講義では、とくに「…はダサい」という否定的な美的判断を取り上げ、それが人の美的センスの評価に結びつくことがよくあるという側面に注目しながら、その美的判断としての独特さとそれをめぐる諸問題（倫理的な問題も含む）について考えたい。

授業の目的は、「何がダサいのか／ダサくないのか」を確定させることにあるわけでもなければ、「ダサくならないためにはどうすればよいか」という実践的な処方を提供することにあるわけでもない。また「…はダサい」という美的判断が倫理的にアウトである／セーフであるというジャッジを下すことにあるわけでもない。

むしろ授業の目的は、「…はダサい」という美的判断の理由づけの構造（とその多様さ）を検討し、それを通してその種の判断を相対化できるようになる（そこから多少の距離を取れるようになる）ことにある。

テーマ上、この講義はオフェンシブな内容を含みうる。下記の「授業計画と内容」の下部にある【注意点】をよく読んだ上で受講すること。

[到達目標]

・狭義の美学の基本概念について初歩的な理解を得る。
・素朴な美的相対主義や素朴な美的独断論のまどろみから抜け出す。
・「…はダサい」という判断についての反省を深める。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンスと注意点
第2回　「ダサい」とされるものの事例と問題の設定
第3回　美学の基本①：美的判断・美的概念・美的性質
第4回　美学の基本②：美的相対主義（de gustibus non est disputandum）と趣味の良し悪し

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

第5回　「いき」と「野暮」についての古典的議論
第6回　ルッキズムと能力主義
第7回　スノッブと美的な悪徳
第8〜14回　各論者による「ダサいもの」の具体例とその理由づけ
第15回　フィードバック

前半は、授業全体の大まかな問題設定を確認したあと、議論の前提として美学（狭義）の基本的な考え方を示したうえで、いくつかの先行議論を紹介する。

後半は、各回ごとにゲスト講師を呼び、「ダサいもの」の具体例とそれをなぜ「ダサい」と判断するのかについての理由をプレゼンしてもらう予定。一方向のレクチャーというよりも、受講者からのリアルタイムの反応をもとにしつつ、担当教員とゲストのやりとりで議論を深めることを考えている。

以上はあくまで予定であり、各回の内容や順序は変更される可能性がある。

【注意点】
・この授業では、個々のモノについて「ダサい／ダサくない」の判定を下すことはないが、必然的に、個々のモノについて「ダサい」と言われている（あるいは言われがちである）という事実を紹介することになる。また、扱い方に十分注意はするが、場合によっては揶揄に見えるような言説を取り上げることもありえる。それらの点で、そのモノを好んでいる人にとって（あるいはそうでない人にとっても）オフェンシブに感じることが少なからずあるかもしれない。あらかじめ十分にご了承ください。

・「おしゃれだ」や「ダサい」といった美的概念は、ファッション（装い）に対してもしばしば使われるが、ファッションに対する美的判断は場合によっては人の身体への評価を暗に含みうるため、その他の対象に対する判断よりも倫理的な懸念が大きい。この授業では、ファッションに対する美的判断をできるだけ具体例から除外する予定だが、部分的にそうした例も言及される可能性がある。あらかじめ十分にご了承ください。

・この授業は、内容・形式ともに実験的な側面がある。とくに「ダサい」という美的概念については担当教員自身も十分に整理できているわけではないため、授業がグダグダになる可能性が少なからずある。少なくとも、何か明確に確立した知識や研究を「勉強する」というタイプの授業ではない。あらかじめご了承ください。

・リアクションペーパーとそれへの応答は授業の最重要の部分として考えており、前回授業のリアクションペーパーの紹介とそれへの返答に少なからず授業時間を使うことになる。

[履修要件]

履修希望者多数の場合、教室の収容人数に従って人数制限をする可能性がある。人数制限をする場合は文学部の学部2〜4回生を優先するが、場合によっては抽選を行う。

[成績評価の方法・観点]

平常点：50%
期末レポート：50%

メディア文化学(特殊講義)(3)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(3)

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「自分が「ダサい」と判断するものの具体例を挙げ、その判断の理由について、授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい（字数自由）」のような課題になる予定。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

（その他（オフィスアワー等））

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学26

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　須田　千里				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	泉鏡花										

[授業の概要・目的]

泉鏡花は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、その文学・作品のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。

授業は教室で対面で行う。授業は、Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。

受講生は、授業に関する質問・意見を全体で４回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。

研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。

[到達目標]

泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)、鏡花文学における「魔」の女性像―片輪車―
第2回　鏡花文学における「魔」の女性像―通り魔―
第3回　鏡花文学における「魔」の女性像―美しい女の通り魔―
第4回　鏡花文学における「魔」の女性像―瀧夜叉姫と飛天夜叉―
第5回　鏡花文学における「魔」の女性像―安達ケ原の一つ家―
第6回　鏡花文学における「魔」の女性像―前の世―
第7回　鏡花文学に見られる「魔」関連語彙
第8回　鏡花における美女と「魔」
第9回　泉鏡花「山海評判記」の概要
第10回　「山海評判記」の材源
第11回　泉鏡花への柳田国男の影響
第12回　「半島一奇抄」の素材
第13回　「山海評判記」の構想
第14回　「山海評判記」周辺作品の構想
第15回　フィードバック
理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業に関して自分で疑問に思ったことや、考えたり調べたりしたことを提出するのが４割(４回、各10点)、レポート６割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

[教科書]

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見をPandAに提出する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環ＨＰよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学27

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　須田　千里				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	久生十蘭と芥川龍之介										

[授業の概要・目的]

久生十蘭と芥川龍之介は大正～昭和に活躍した作家である。この授業では、その代表作のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。

授業は教室で対面で行う。Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。

受講生は、授業に関する質問・意見を全体で４回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。

研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。

[到達目標]

久生十蘭や芥川龍之介に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)。久生十蘭の生涯と文学。「重吉漂流記」について
第2回　「重吉漂流記」と「藤九郎の島」
第3回　「藤九郎の島」
第4回　「ボニン島物語」の材源と構想
第5回　「ボニン島物語」の主題
第6回　「鈴木主水」の概要
第7回　「鈴木主水」の材源
第8回　「鈴木主水」の主題
第9回　芥川龍之介の生涯と文学。「神神の微笑」の概要
第10回　「神神の微笑」の材源
第11回　「神神の微笑」の主題
第12回　芥川龍之介「忠義」の概要
第13回　「忠義」の材源
第14回　「忠義」の主題
第15回　フィードバック
なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。

メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業に関して疑問に思ったことや、自分で考えたり調べたりしたことを提出するのが４割(４回、各10点)、レポート６割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

[教科書]

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教員の講義・先行論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見等をPandAに提出する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環ＨＰよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学28

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都精華大学デザイン学部 准教授 蘆田 裕史 文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3,4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ファッションの文化実践：制作・歴史・メディアの観点から										

[授業の概要・目的]

ファッションと無関係に生活を送ることのできる人はいない。仮にあなたが「ファッションに興味がない」と考えていたとしても、あなたが着るものはあなたのアイデンティティを表してしまう。私たちはそうしてファッションという文化のなかに否が応でも巻き込まれてしまう。

服が誰かによって作られ、私たちのもとに届けられ、そして私たちがそれを身に着けることで日々ファッションの文化が作られていく。こうしたファッションの文化実践の現場を知ることで、ひとつの文化が、そこに関わるさまざまな立場の人たちの有機的で流動的なつながりのなかで立ち上がっていくさまを総体的に理解することを目的とする。

[到達目標]

一番重要な目標
・ひとつの文化が、様々な立場の人々の文化実践の総体であることを知る。

その他の目標
・ファッションの作り手・届け手となる現場の人の実務・思考・関心に触れる。
・歴史記述の具体的な方法についての知識を得る。
・ポピュラー文化の評価のあり方と、文化に対する社会的な評価が生成すること自体について考える。

[授業計画と内容]

授業は原則、隔週で2コマ連続で行う（初回のみ1コマで計15回分の授業になる）。

各回ごとに、ファッション業界のさまざまな領域で活動するゲストスピーカーを招き、それぞれの視点から見たファッションについて講義してもらう（講義の形式はスピーカーごとに異なる可能性がある）。

また、受講者からの質問を募集し、適宜スピーカーに応答してもらう。質問は事前に集めるか、または授業中に一定の質問時間を設ける。

各回の内容は以下を予定しているが、ゲストの職種や順序を含めて変更になる可能性がある。

第1回　イントロダクション
第2回　ファッションの作り手①：ファッションデザイナー（2コマ）
第3回　ファッションの作り手②：ファッションディレクター（2コマ）
第4回　ファッションの作り手③：スタイリスト（2コマ）

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

第5回　ファッションの作り手④：プロシューマー（2コマ）
第6回　ファッションの届け手①：PR担当者（2コマ）
第7回　ファッションの届け手②：エディター／ジャーナリスト（2コマ）
第8回　ファッションの届け手③：ショップオーナー／販売員（2コマ）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点：100%

平常点は、基本的に各回の授業後に提出を求めるリアクションペーパーで評価する（加えて授業前・授業中の質問も評価に上乗せする可能性がある）。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

質疑応答を授業の重要なパートとして考えているので、気になることがあれば積極的に質問することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学29

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　福家　崇洋				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本社会運動史										

[授業の概要・目的]

明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想がはたした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。

[到達目標]

日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。

[授業計画と内容]

1 ガイダンス
2 自由民権運動
3 「初期社会主義」と労働運動
4 アジア主義と対外硬運動
5 2つの戦争と「大正デモクラシー」
6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動
7 国家改造運動
8 無産政党と社会民主主義の形成
9 総力戦とクーデター未遂事件
10 満洲事変と「転向」　　国家社会主義の台頭
11 昭和維新運動　　テロと叛乱未遂
12 天皇機関説事件と宗教運動
13 反ファシズム統一戦線
14 占領下の民主化運動
15 まとめ

なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。

[履修要件]

特になし

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅰ』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅱ』（ちくま新書、2023年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　大正篇』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　戦前昭和篇』（ちくま新書、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学30

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 堀　あきこ				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	メディアとジェンダー・セクシュアリティ										

[授業の概要・目的]

私たちを取り巻くメディアは、様々な形でジェンダーやセクシュアリティと深く関わっている。メディアは社会で共有されている価値観を映し出すだけでなく、その再生産と創造を行っているからだ。本講義では、インターネットやCM、マンガ、映画、ドラマといった身近なメディアをジェンダーやセクシュアリティの視点から見ることによって、それらが私たちにどのような影響を与えているのかを考える。さらに日本のポップカルチャーが国境を超えて世界中で受容され、そして、現地化された文化がふたたび日本で受容される現象についても議論し、国際的な作品・メディア・ファンのインタラクションについて検討する。

[到達目標]

①情報に接する際に必要となるメディアリテラシーを養い、②メディアによるジェンダーやセクシュアリティの構築性を理解し、③メディアから社会にある問題や課題を読み解いて、クリティカルな考察ができるようになる。

[授業計画と内容]

基本的には以下の授業計画に基づいて講義を進める。ただし講義の進みぐあいや、受講者の理解の状況に応じて変更する場合がある。
フィードバックは、毎回の授業開始時に前回の授業に対するコメントを紹介する形で行う。

第1回　性にかかわる概念①ジェンダーと性差
第2回　性にかかわる概念②セクシュアリティ
第3回　マンガ雑誌とジェンダー
第4回　マンガで描かれる性的マイノリティ
第5回 CMとジェンダー規範
第6回 メディアとジェンダー平等関連政策
第7回 女性表象と性的表現
第8回 ヘイトスピーチと感動ポルノ
第9回 ヘイズ・コード
第10回　映画と女性ジェンダー
第11回　性的マイノリティとTVドラマの変遷
第12回　実写ドラマ化
第13回　BLの越境とファン
第14回　メディアの変化からBLを考える
第15回　全体の振り返りとフィードバック

期末レポートの詳細については、初回の授業で告知する。

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

・平常点30%（各回のコメントペーパー）
・レポート70%（レポートの評価基準は、授業内容を踏まえていることを基準として、到達目標の達成度に基づき評価する）
・100 点満点、60 点以上で合格。
・４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
国広陽子・他編 『メディアとジェンダー』（勁草書房, 2012）
清水晶子・他著 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』（有斐閣, 2022）
堀あきこ・他編 『BLの教科書』（有斐閣, 2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。
授業内で紹介する作品等は、各自で鑑賞することを推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

問い合わせたいことがある場合は、授業終了後に対応します。
メールでの連絡は、horry322@gmail.comまで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学31

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　木下　千花				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	映画その他：メディアエコロジー、引用、横領										

[授業の概要・目的]

現代のハリウッド映画に少しでも親しんだ者なら、コンピュータのモニタ、スマホの画面、監視カメラ映像など、いわば「地の文」をなす映画とは別のスクリーンと映像がちりばめられ、物語と形式の両面でしばしば重要な役割を担っていることを知っているだろう。逆に言えば、主流映画の大スクリーンにおける多様な映像の氾濫は、映画による現代のメディア環境への応答に他ならない。本授業では、映画史・映像理論の成果と対話しつつ、映画と他のスクリーン、隣接メディアとの関係を見出し、分析し、思考する。

[到達目標]

・映画と他の映像メディアの関係について、基本的な概念やこれまで展開されてきた議論を学ぶ。
・それに基づいて映画・映像作品を分析する応用力を身につける。
・自ら対象を見つけ、仮説を立て、資料収集と分析を行って検証する。

[授業計画と内容]

＜授業計画と内容＞
授業計画と内容
第１回　　イントロダクション
Part 1　自由間接話法と他者の映像
第２回　　自由間接話法（パゾリーニ）
第３回　　エリック・ロメールの実践
第４回　　自由間接話法と映像人類学（ドゥルーズ、ルーシュ）
第５回　　現代日本における他者の映像
Part 2　メディアエコロジー（とは？）
第６回　　テレビとメディアエコロジー（ウィリアムズ、ラマール）
第７回　　ジェンダーとメディアエコロジー（コロミーナ、プレシアド）
第８回　　万博と映像（モントリオール67から『絞殺魔』へ）
第９回　　万博と映像（大阪70）
Part 3　横領の美学と政治学
第１０回　コンピレーション映画の歴史
第１１回　ファウンドフッテージとアーカイヴ（モリソン）
第１２回　科学映像と科学映画
第１３回　性教育映画とエクスプロイテーション、偽ドキュメンタリー
Part 4　まとめと展望
第１４回　iPhone映画
第１５回　期末論文テーマ発表

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

中間小論文または発表（30%）、期末論文（60%）、授業への積極的な参加（10%）
期末論文については到達目標の達成度に基づいて採点する。とりわけ、画面・音響や語り、物語の構造など形式面に対する気づきと独自性・新規性を評価する。

[教科書]

PandA（e-learning）を活用し、必読のテクストおよび資料をPDFファイルで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講読資料配付および情報伝達のためPandA（e-learning）を活用する。履修者は予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。授業時間以外に毎週30-120分程度の映像作品の鑑賞が必要になる。作品や方法については第一回目の授業で指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学32

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　木下　千花				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	映画その他：メディアエコロジー、引用、横領										

[授業の概要・目的]

現代のハリウッド映画に少しでも親しんだ者なら、コンピュータのモニタ、スマホの画面、監視カメラ映像など、いわば「地の文」をなす映画とは別のスクリーンと映像がちりばめられ、物語と形式の両面でしばしば重要な役割を担っていることを知っているだろう。逆に言えば、主流映画の大スクリーンにおける多様な映像の氾濫は、映画による現代のメディア環境への応答に他ならない。本授業では、映画史・映像理論の成果と対話しつつ、映画と他のスクリーン、隣接メディアとの関係を見出し、分析し、思考する。

[到達目標]

・映画と他の映像メディアの関係について、基本的な概念やこれまで展開されてきた議論を学ぶ。
・それに基づいて映画・映像作品を分析する応用力を身につける。
・自ら対象を見つけ、仮説を立て、資料収集と分析を行って検証する。

[授業計画と内容]

＜授業計画と内容＞
授業計画と内容
第１回　　イントロダクション
Part 1　自由間接話法と他者の映像
第２回　　自由間接話法（パゾリーニ）
第３回　　エリック・ロメールの実践
第４回　　自由間接話法と映像人類学（ドゥルーズ、ルーシュ）
第５回　　現代日本における他者の映像
Part 2　メディアエコロジー（とは？）
第６回　　テレビとメディアエコロジー（ウィリアムズ、ラマール）
第７回　　ジェンダーとメディアエコロジー（コロミーナ、プレシアド）
第８回　　万博と映像（モントリオール67から『絞殺魔』へ）
第９回　　万博と映像（大阪70）
Part 3　横領の美学と政治学
第１０回　コンピレーション映画の歴史
第１１回　ファウンドフッテージとアーカイヴ（モリソン）
第１２回　科学映像と科学映画
第１３回　性教育映画とエクスプロイテーション、偽ドキュメンタリー
Part 4　まとめと展望
第１４回　iPhone映画
第１５回　期末論文テーマ発表

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

中間小論文または発表（30%）、期末論文（60%）、授業への積極的な参加（10%）
期末論文については到達目標の達成度に基づいて採点する。とりわけ、画面・音響や語り、物語の構造など形式面に対する気づきと独自性・新規性を評価する。

[教科書]

PandA（e-learning）を活用し、必読のテクストおよび資料をPDFファイルで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講読資料配付および情報伝達のためPandA（e-learning）を活用する。履修者は予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。授業時間以外に毎週30-120分程度の映像作品の鑑賞が必要になる。作品や方法については第一回目の授業で指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学33

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	コンピューティングの技術文化史										

[授業の概要・目的]

本特殊講義では、情報学の古典的文献を取り上げながら、各年のテーマに沿って、現在のコンピューティングのスタイルがどのようにできあがってきたのか、それに関わった人々は、どのような技術的背景・知的状況の中で思考し、技術的なアイデアを生み、社会の中で実装につなげてきたのかを考えます。

本年度のテーマは「人間とコンピュータの共生」です。

扱う資料はまずは文献ですが、近過去を対象にしているため、映像・音声資料、インタビュー記録、その他のデジタルデータなども史料となりますし、文献資料の中には技術論文、設計図なども含まれます。

[到達目標]

・現在進行形で日々変化しているコンピューティング環境のありようについて、歴史的な理解をもつことで大局的な理解ができるようになる。

[授業計画と内容]

1. オリエンテーション
2. 当たり前を疑う：現在のコンピューティングのスタイルを見直す
3. 初めて入出力装置が生まれた頃
4. 人間-機械混成システムとは何か
5. 最初期のインタラクティブシステムはどのようなものだったか
6. コンピュータを介したコミュニケーションの始まり
7. グラフィカルユーザインタフェースの誕生
8. コンピュータを介したコラボレーションの進展
9. ユーザによるテストの始まり
10. ダイレクトマニュピレーションという考え方
11. デスクトップからユビキタスへ
12. より直接的に操作するには
13. サイボーグ論
14. VRとメタバース
15. フィードバック

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：授業前課題や授業内課題への参加（30点）、レポート課題の内容（70点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次回内容に関する授業前課題への回答（所要時間15分程度）
配布資料の読解（英語文献を含む。所要時間30分／件）
レポート作成（3時間程度）

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトを作成

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学34

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　仁井田　千絵				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	音響メディア史										

[授業の概要・目的]

主にレコード、ラジオ、映画について書かれた理論的・歴史的な文献を講読しながら、音響メディア史について学ぶ。授業では音響メディア史に関する学術的な文章を読んで理解することに重点を置き、今日の我々を取り囲む音響メディアをより批評的に考察するための糸口とする。

[到達目標]

・音響メディア史の基本的な流れと思想的枠組みを理解する。
・レコード、ラジオ、映画に関する学術的な文章を読むことで、音響メディアを批評的に考察する視点を身につける。

[授業計画と内容]

授業は学生による発表（＋教員の解説）とディスカッションから進める。
講読する文献は変更する場合がある。

第1回：イントロダクション
第2-3回：『音響メディア史』（谷口・中川・福田）、『声の文化と文字の文化』（オング）
第4-6回：『レコードの美学』（細川）、『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（キットラー）
第7-9回：『聞こえくる過去』（スターン）、『Electric Sounds』（Wurtzler）
第10-12回：『映画にとって音とは何か』（シオン）、『Designing Sound』（Beck）
第13-14回　先生と総括の会話
第15回　フィードバック

[履修要件]

課題として出されるテキストの読解と授業でのディスカッションに積極的に参加する意志があること。

[成績評価の方法・観点]

PandAの課題提出：5点×12回＝60点
発表：10点×2回＝20点
ディスカッションでの発言：5点×2回＝10点
先生と総括の会話：10点

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
谷口文和・中川克志・福田裕大 『音響メディア史』（ナカニシア出版）ISBN:9784779509513

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：文献を事前に読み、発表担当の場合はその準備をする。
復習：授業の内容を踏まえたコメントをPandAから提出する。

（その他（オフィスアワー等））

教員と連絡を取りたい場合は、メールの件名に氏名、科目名、科目の時限を必ず記載し、下記のアドレスまで送ること（これらの記載がないメールには返信しないので注意）。
仁井田千絵<niita.chie.3w@kyoto-u.ac.jp>

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学35

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　仁井田　千絵				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	映画ジャンル論										

[授業の概要・目的]

映画ジャンルについて書かれた理論的・歴史的な文献を講読しながら、映画ジャンル論の基礎を学ぶ。前半はハリウッド映画の代表的なジャンルの特徴について網羅的に把握し、後半はフィルムノワールを題材に考察する。

[到達目標]

・代表的な映画ジャンルの歴史と理論的な枠組みを理解する。
・具体的な作品をジャンル論の観点から分析できるようになる。

[授業計画と内容]

授業は学生による発表（＋教員の解説）とディスカッションから進める。
講読する文献は変更する場合がある。

第1回：イントロダクション
第2-6回：『Film/Genre』（Altman）
第7-12回：『Film Noir』（Naremore）
第13-14回　先生と総括の会話
第15回　フィードバック

[履修要件]

課題として出されるテキストの読解と授業でのディスカッションに積極的に参加する意志があること。

[成績評価の方法・観点]

PandAの課題提出：5点×12回＝60点
発表：10点×2回＝20点
ディスカッションでの発言：5点×2回＝10点
先生と総括の会話：10点

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
James Naremore 『Film Noir: A Very Short Introduction』（Oxford University Press）ISBN: 9780198791744（大学図書館の電子ブックで閲覧可）

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：文献を事前に読み、発表担当の場合はその準備をする。
復習：授業の内容を踏まえたコメントをPandAから提出する。

（その他（オフィスアワー等））

教員と連絡を取りたい場合は、メールの件名に氏名、科目名、科目の時限を必ず記載し、下記のアドレスまで送ること（これらの記載がないメールには返信しないので注意）。
仁井田千絵<niita.chie.3w@kyoto-u.ac.jp>

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学36

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　岸　政彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法論										

[授業の概要・目的]

「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。

[到達目標]

この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。

[授業計画と内容]

1 導入――質的調査は何をするのか
2 一般化という問題――普遍性と固有性のあいだで
3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1)
4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2)
5 「理由のある行為」とは何か(1)――ウィリスとブルデュー
6 主体的なものと状況的なもの――丸山里美
7 身体と意味――石岡丈昇
8 「裸足」とは何か――上間陽子
9 男であることの社会学――打越正行
10 語りのなかに引きずり込まれる――岸政彦(1)
11 語り手から名前を呼ばれる――岸政彦(2)
12 聞くという経験を書く――岸政彦(3)
13 「理由のある行為」とは何か(2)――ウェーバー
14 方法/倫理/政治
15 まとめ――質的調査は何をすればよいのか

[履修要件]

特になし

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学37

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　吉田　純				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	情報ネットワーク社会論										

[授業の概要・目的]

ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。

[到達目標]

現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。

[授業計画と内容]

以下の計画で15週の講義をおこなう。
1 オリエンテーション
2 情報ネットワーク社会への視点
3 日本社会の情報化　――情報化の現代史(1)
4 アメリカ社会の情報化　――情報化の現代史(2)
5 監視社会論　――社会システムの情報化(1)
6 リスク社会論　――社会システムの情報化(2)
7 経済システムの情報化　――社会システムの情報化(3)
8 ネット空間の展開　――生活世界の情報化(1)
9 再帰的近代化としての情報化　――生活世界の情報化(2)
10 生活世界のリアリティの再構築　――生活世界の情報化(3)
11 公共圏の情報化
12 親密圏の情報化
13 公共圏／親密圏の再編成
14 情報ネットワーク社会論の再構築
15. フィードバック (PandA上で実施)

[履修要件]

社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい

[成績評価の方法・観点]

素点(100点満点)で評価する。
・平常点(40点)+期末レポート(60点)
・平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による
　(詳細はオリエンテーションで説明)
・素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
・資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること (必ずしも印刷の必要はない)
・PandAサイトで復習用課題を実施する (詳細は初回授業で説明)

（その他（オフィスアワー等））

・PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する (利用方法の詳細は初回の授業で説明)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学38

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学国際関係学部 准教授 須藤　瑞代				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ジェンダーからみる近代中国史										

[授業の概要・目的]

本講義では、19世紀末から20世紀前半にかけての中国におけるジェンダー秩序の変容について分析する。具体的には以下の三つに重点をおいて講義を行う。
（１）思想：国家形成と密接に関連して論じられた「女権」や、前近代から続く節婦烈女の褒揚に関する議論を分析し、ジェンダー秩序の変容がどのように展開したのかを考察する。
（２）メディア：『婦女雑誌』『上海婦女』など複数の女性向け雑誌をとりあげ、各雑誌の特徴をふまえつつ、どのような議論が展開され、中国におけるジェンダー秩序にいかなる影響を与えたのかを分析する。
（３）日中女性交流：日本人女性記者竹中繁は1926～27年の半年間にわたり中国の各都市を旅行し、女性たちと交流した。その中には、宋慶齢など著名な女性から、女性教員や女性記者などほぼ無名の人々も含まれる。竹中繁の視線を通して当時の中国社会を考察し、日中関係史の中で女性間のつながりがどのような意味を持つものであったのか、双方の社会のジェンダー秩序の変容とどのようにかかわっていったのかを考察する。

[到達目標]

近代における中国社会の変容について、ジェンダーに着目して分析できるようになる。
近代中国女性史に関する基本的知識を身につける。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション
第２回　「女権」をめぐる議論 ①
第３回　「女権」をめぐる議論 ②
第４回　女子学生の登場
第５回　「節婦烈女」の褒揚
第６回　『婦女雑誌』にみる日本女性像
第７回　日本人女性記者竹中繁の半生
第８回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）①
第９回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）②
第10回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）③
第11回　竹中繁による日中双方向レポート
第12回　竹中繁の中国再訪・市川房枝とともに（1940年）
第13回　『女声』にみる日本女性の不在
第14回　『上海婦女』にみる「つながる」女性たち
第15回　フィードバック

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
須藤瑞代 『中国「女権」概念の変容――清末民初の人権とジェンダー』（研文出版、2007年）
村田雄二郎編 『「婦女雑誌」からみる近代中国女性』（研文出版、2005年）
山﨑真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅 『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に』（研文出版、2018年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡は電子メール（mizuyos@cc.kyoto-su.ac.jp)で行ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学39

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　安岡　孝一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多言語情報処理論										

[授業の概要・目的]

この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。

[到達目標]

書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いため、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。

1.Мельчук依存文法とUniversal Dependencies (1回)
2.BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回)
3.系列ラベリングと品詞付与 (1回)
4.依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回)
5.古典中国語(漢文)の文法解析 (2回)
6.日本語の文法解析 (2回)
7.英語の文法解析 (1回)
8.フランス語の文法解析 (1回)
9.タイ語の文法解析 (1回)
10.その他の書写言語の文法解析 (3回)

[履修要件]

特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)

[教科書]

適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学40

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授 ROTH, Martin Erwin				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	批判的ゲームスタディーズの基礎理論										

[授業の概要・目的]

近年大きく発展してきたデジタルゲームは、文化産業、軍事産業、コンピュータによる生の管理、そしてプラットフォーム資本主義と深く結びついている。本講義では、このようなゲームを批判的に捉えてきたゲームスタディーズの理論的展開を軸に、現代ゲーム文化を考察・検討する。

[到達目標]

デジタルゲームを批判的に捉える意義を理解し、各理論を自信でゲームやデジタルメディアに適用しながら、現代のメディア環境を考察できるようになる。

[授業計画と内容]

1. 批判とは何か：フランクフルト学派を背景に
2. 遊びI： Huizinga
3. 遊びII： Suits
4. マーケティングサーキット： Kline et al.
5. 帝国： Dyer-Witheford et al.
6. サイボーグ： Haraway
7. 表現力 I： Galloway, Kirkpatrick
8. 表現力 II： Wark, Flanagan
9. 表象I： Malkowski et. al.
10. 表象II： ジェンダー: Shaw, Ruberg
11. ゲーミフィケーション: 井上
12. プラットフォーム: Castronova
13. メタゲーミング： Boluk et al.
14. 遊びの再検討: Sicart, Henricks, Roth
15. 総合討論

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績評点は６段階。
討論への積極的な参加（３０%）、レポート（１回、７０%）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテキストを通読して準備すること

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学41

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	広島大学人間社会科学研究科 教授 市川　浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目											

[授業の概要・目的]

「冷戦（東西冷戦）とは，第2次世界大戦後，アメリカ合衆国とソヴィエト社会主義共和国連邦，およびその同盟国の間で展開された，大規模な核軍拡競争をともなう政治的・軍事的対立をいう．……社会思想や文化的価値観までを含む，社会生活の多様な側面を巻き込んだ点にそれまでの単なる大国間の勢力圏争いとの相違があった」（丸善『科学史事典』564ページ）．米ソ両国では，夥しい量の研究資金，研究手段と研究者が核開発などに関連した諸分野に恒常的に注ぎ込まれた．アメリカにおける冷戦期科学，および，その前史とも言うべき第2次世界大戦期科学の経験については，これまでさまざまに論じられてきたが，ソ連のそれについて語られることは希であった．本講義では，その前史を含め，ソ連における科学発展を，おもにその社会的側面から辿ってゆく．その際，冷戦期における軍民両方の核開発を相対的な中心として論じたい．

[到達目標]

本講義を履修し，学修目的を達成した結果，“ソヴィエト・サイエンス”の歴史的経験の視点から現代科学がどのようにして形成されていったのか，現代科学史，ひいては現代史全般に関する理解をよりいっそう豊かにすることができる．

[授業計画と内容]

1．　ガイダンス：1998年の問い―“冷戦型科学・技術体制”は克服できるか？―
2．　ロシアの近代化と科学：サンクト=ペテルブルグ帝室科学アカデミー
3．　“科学の参謀本部”：ヴラジーミル・ヴェルナツキーとソ連邦科学アカデミー
4．　イデオロギーと科学：“優生学”，ナチズム，ルィセンコ“学説”
5．　原爆開発への道：原子核物理学の展開と各国における初期核開発
6．　ＲＤＣ(エル・デー・エス)…“ロシアは自力でやる！”：ソ連の初期核兵器開発
7．　“冷戦気候（Cold War Climate）”：動員される科学者，イデオロギー的圧迫
8．　核戦略の“トライアド”：ソ連におけるミサイル開発と原子力潜水艦建造
9．　放射能の影：「ビキニ事件」と米ソ“サイエンス・ウォー”
10．ソ連版“平和のための原子”：オブニンスク原子力発電所（1954年）
11．経済停滞とエネルギー危機：原子力発電所建設の疾走
12．東側の原子力：原子力分野における“同盟”諸国との“協力”
13．“越境するソヴィエト・サイエンス”：日本への影響
14．　帰結：チェルノブィリ原子力発電所，1986年4月26日午前１時23分
《定期試験》
15．フィードバック

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

3回の小レポート（各20%），定期試験（40%）で成績評価をおこなう．受講生の本講義に取り組む姿勢（平常点）を加味する場合もある．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
とりあえず，市川浩「第Ⅳ巻６: 科学――〝強大なソヴィエト連邦〟の背後に」（編集委員会［中嶋毅・浅岡善治］編『ロシア革命とソ連の世紀　第4巻：人間と文化の革新』岩波書店，2017年．177-199ページ）；市川 浩『ソ連核開発全史』（ちくま新書，2022年）を参考文献とする．その他参照してほしい文献は授業中に示す．

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に示す．

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学42

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学産業社会学部　教授 飯田　豊				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	メディア技術史										

[授業の概要・目的]

「新しい○○が△△を変える」という言い回しが、世の中にはいろいろとある。たとえば、Twitterが政治を変える、ビッグデータが経済を変える、AIが仕事を変える、オンライン授業が教育を変える、マッチングアプリが恋愛を変える、メタバースがコミュニケーションなど、とくにデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。それにともなって、新聞やテレビなどが伝える情報を批判的に読み解くという意味でのメディア・リテラシーだけでなく、インターネットを基盤とするデジタルメディアが遍在する社会を生き抜くための素養を身につけることが、小学校から大学にいたるまで、教育の現場で重視されるようになってきた。

もっとも、新しいメディアの「新しさ」を深く追究しようと思えば、結局のところ、古いメディアとの比較を避けて通ることはできない。新しいメディアをめぐるさまざまな現象に興味をもち、積極的に解釈や分析を積極的に試みることは重要だが、同時に、目の前で起こっていることを近視眼的にとらえるのではなく、過去の事例から学び、現在にいかす思考を身につけることが望ましい。

したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた20世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。

[到達目標]

近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを理解し、それを適切に説明できるようになる。

「メディア」と「技術」の相互関係に対する理解を深め、それを適切に説明できるようになる。

メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論の基礎的な思考法を理解し、それを適切に説明できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下のスケジュールにもとづいて講義を進める。ただし、講義の進捗状況や受講者の理解度などを踏まえて、若干の変更もありうる。

第1回　イントロダクション：メディア技術史とは何か
第2回　技術としての書物：紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答
第3回　写真はどこにあるのか：イメージを複製するテクノロジー
第4回　映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（①光学装置の開発と視覚理論の発展）
第5回　映画の歴史を巻き戻す：現代のスクリーンから映像の幼年時代へ（②初期映画）
第6回　音楽にとっての音響技術：歌声の主はどこにいるのか
第7回　声を伝える／技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（①電信と電話）
第8回　声を伝える／技術を楽しむ：電話・ラジオのメディア史（②ラジオ）

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

第9回　テレビジョンの初期衝動：「遠く（tele）を視ること（vision）」の技術史（①電子式テレビジョン）
第10回　テレビジョンの初期衝動：「遠く（tele）を視ること（vision）」の技術史（②機械式テレビジョン）
第11回　ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に（①初期CATVの考古学）
第12回　ローカルメディアの技術変容：ミニFMという実践を補助線に（②ポストメディアとしてのミニFM）
第13回　文化としてのコンピュータ：その「柔軟性」はどこからきたのか
第14回　開かれたネットワーク：インターネットをつくったのは誰か
第15回　誰のための技術史？：アマチュアリズムの行方

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60点）、平常点（40%）により評価する。
レポートについては、メディア技術史に関する基礎的な知識に加えて、メディア論の思考法について、総合的な理解ができているかどうかを評価する。事象を論理的に説明できているかどうか、要領よくまとめて書けているかどうか、自分の考えを述べることができているかどうかを重視する。
平常点については、コミュニケーションペーパーの提出を求め、その内容にもとづいて参加状況の評価をおこなう。

[教科書]

飯田豊編著 『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方［改訂版］』（北樹出版、2017年）
ISBN:978-4-7793-0532-0

[参考書等]

（参考書）
水越伸・飯田豊・劉雪雁 『新版 メディア論』（放送大学教育振興会、2022年）（2022年3月刊行予定。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に教科書の該当部分を一読しておいてください。また、授業で使用するプリントは事前に配布することがあるので、当日までに一読しておき、忘れずに持参してください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学43

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	モノからみる中国近代史										

[授業の概要・目的]

近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。

[到達目標]

中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.中国経済の仕組み
3.中国茶貿易の発展
4.アジア間競争と中国茶の行方
5.アヘン貿易の発展
6.外国アヘンと中国アヘン
7.禁煙運動とその後
8.清代中国の米流通
9.動乱と外国米
10.羊毛貿易の勃興
11.羊毛貿易の展開
12.清代大豆貿易の展開
13.満洲大豆貿易の発展と東北地域の変動
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学44

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史　近代中国										

[授業の概要・目的]

グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきていた。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性が高い。新型コロナウィルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。

[到達目標]

開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.明代商業の発展と牙行
3.東アジア海域交流と仲介者
4.明代後期～清代中期の海上貿易の展開と仲介者
5.外国人商人と買弁（1）
6.外国人商人と買弁（2）
7.苦力貿易の盛衰と客頭（1）
8.苦力貿易の盛衰と客頭（2）
9.開港場貿易の発展と行桟（1）
10.開港場貿易の発展と行桟（2）
11.工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡
12.前近代東南アジア海域の仲介者
13.前近代地中海世界の仲介者
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学45

科目ナンバリング	G-LET37 6M431 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義） Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　安岡　孝一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人文情報学1A										

[授業の概要・目的]

この授業では、コンピュータや通信において用いられる文字コードについて、講義をおこなう。文字コードの技術的側面のみならず、文字コードの成立過程などの歴史的・社会的側面に重点をおいて、演習形式で講義を進める。

[到達目標]

文字コードの技術的側面を中心に、現代の文字コードに至る過程を理解する。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。

1. モールス符号の変遷
2. 印刷電信機とその符号
3. 国際電信アルファベットとCCIT
4. 日本における電信符号の発展
5. ASCIIとISO R 646とJIS C 6220
6. JIS情報交換用漢字符号系の成立
7. 1970～80年代における文字符号の乱立
8. ISO/IEC 10646とUnicode

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

[履修要件]

特別な予備知識は必要としないが、インターネットへのアクセスや電子メールの使用経験があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)

[教科書]

適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
安岡孝一・安岡素子 『文字符号の歴史 欧米と日本編』（共立出版,2006年）ISBN:4-320-12102-3

[授業外学修（予習・復習）等]

欧米と日本の近代史、特に20世紀の歴史について、事前に多少なりとも理解しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学46

科目ナンバリング	G-LET37 6M431 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　安岡　孝一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人文情報学1B										

[授業の概要・目的]

この授業では、世界の文字コードについて講義をおこなう。日本の文字コードのみならず、欧米やアジアの文字コードに関して、それらがどのような技術的・社会的条件のもとに成立したかについて、演習形式で講義を進める。

[到達目標]

現代の文字コードを通し、国際的な「決めごと」というものが、どのような形で成立し、あるいは成立しなかったかについて理解する。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1〜3週の授業をする予定である。

1. 当用漢字表・当用漢字字体表・人名用漢字・常用漢字表・表外漢字字体表とJIS漢字コード
2. 現代漢語常用字表・現代漢語通用字表・通用規範漢字表・標準電碼本とGB漢字コード
3. 常用國字標準字體表・次常用國字標準字體表とCCCII・BIG5・CNS 11643
4. KS C 5601→KS X 1001の変遷
5. QWERTY配列とASCII・ISO/IEC 646
6. クメールの文字コード
7. Microsoft Windowsにおける文字コードの実装
8. ケータイ絵文字の国際化

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

[履修要件]

特別な予備知識は必要としないが、インターネットへのアクセスや電子メールの使用経験があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)

[教科書]

適宜、資料を配布する。

メディア文化学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）
随時紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

Unicodeを中心とする文字コードが、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学47

科目ナンバリング	G-LET37 6M431 LJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 想田　和弘				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Learning the Power of Observation: How and Why I Make "Observational" Documentaries										

[授業の概要・目的]

In this intensive course, I will explain how and why I take my particular approach to documentary filmmaking, covering all phases of filmmaking from filming to editing to marketing. It will give students an opportunity to learn how a documentary filmmaker thinks and works. Examining actual day to day problems I face, students will also learn and study various issues around documentary, such as ethics, economics, reality vs. fiction, subjectivity vs. objectivity, etc. At the end of the course, each student must write and submit a final paper which discusses such issues analyzing my films and methods.

As a professional filmmaker, I have made ten feature length documentaries in the same method and style. I call them "observational films" not only because they are inspired by the tradition of observational cinema, but also because I believe in the power of observation.

When I say "observation" in this context, I mean two things.

Firstly, as a filmmaker I closely look at the reality in front of me and make films according to my observations and discoveries, not based on the assumptions and preconceptions I had before I shot the film. Secondly, I encourage the viewers to observe the film actively with their own eyes and minds.

In order to realize these two aspects, I came up with "Ten Commandments" for me to follow. They are:

1 No research.
2 No meetings with subjects.
3 No scripts.
4 Roll the camera yourself.
5 Shoot as long as possible.
6 Cover small areas deeply.
7 Do not set up a theme or goal before editing.
8 No narration, title, or music.
9 Use long takes.
10 Pay for the production yourself.

メディア文化学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(2)

[到達目標]

This course will give students an opportunity to learn how a documentary filmmaker thinks and works. Examining actual day to day problems I face, students will also learn and study various issues around documentary, such as ethics, economics, reality vs. fiction, subjectivity vs. objectivity, etc. At the end of the course, each student must write and submit a final paper which discusses such issues analyzing my films and methods.

[授業計画と内容]

DAY 1 (Monday, July 31, 2023)
Introduction. 10 Commandments of Observational Filmmaking. (90 minutes)
Screening Campaign (2007, 120 minutes)
Discussion of Campaign (60 minutes)

DAY 2 (Tuesday, August 1, 2023)
How I shoot observational films (120 minutes)
Clips #8211 Internet Adoption, Campaign, Peace
Screening Mental (2008, 135 minutes)

DAY 3 (Wednesday, August 2, 2023)
Discussion of Mental (60 minutes): ethics, participant observation, etc
Screening Peace (2011, 75 minutes)
How I edit observational films (120 minutes)
Clips #8211 Peace, Mental, Theatre 1

DAY 4 (Thursday, August 3, 2023)
How I market observational films (60 minutes)
Screening Inland Sea (2018, 122 minutes)
Discussion of Inland Sea (80 minutes)

DAY 5 (Friday, August 4, 2023)
Screening Zero (2020, 128 minutes)
Discussion of Zero (60 minutes)
Discussion of final paper (80 minutes)

Reading materials:
Why I Make Documentaries (2011, Kazuhiro Soda)
Other materials to be uploaded online.

*Films to be screened might be changed without notices.

[履修要件]

特になし

メディア文化学(特殊講義）(3)へ続く↓↓↓

メディア文化学(特殊講義）(3)

[成績評価の方法・観点]

Attendance and Active Participation: 40%

Final Paper: 60%
Due date: TBA
Length: 15-20 pages, font 11 and 1.5 space. You much have a proper title and at least five references.
Evaluating aspects:
1. Intriguing thesis and unique ideas
2. Clear outline
3. Persuasive backups
4. Writing skills, including proper references
5. How is it connected with our readings and discussions in classes?

[教科書]

未定

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants may be required to read reading materials related to the class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学48

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IA) Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法（前期）										

[授業の概要・目的]

メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。

[到達目標]

取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせて研究を行うことができる基礎力を養う。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　インタビュー法と質的研究
第3回　インタビュー法に関する文献の検討①
第4回　インタビュー法に関する文献の検討②
第5回　インタビュー練習
第6回　インタビュー分析①
第7回　インタビュー分析②
第8回　グラウンデットセオリーを用いたテキスト分析①
第9回　グラウンデットセオリーを用いたテキスト分析②
第10回　論文の探し方
第11回　雑誌・広告分析を用いた論文の検討①（雑誌編）
第12回　雑誌・広告分析を用いた論文の検討②（雑誌編）
第13回　雑誌・広告分析を用いた論文の検討③（広告編）
第14回　雑誌・広告分析を用いた論文の検討④（広告編）
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（課題60%、発表40%）

メディア文化学(演習IA)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(演習IA)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

佐藤郁哉 『質的データ分析法』（新曜社、2008年）ISBN:9784788510951

戈木クレイグヒル　滋子 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 改訂版 理論を生みだすまで』（新曜社、2016年）ISBN:4788514842

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学49

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IB) Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法（後期）										

[授業の概要・目的]

現代英語圏で主流の美学・芸術哲学（いわゆる分析美学）は、ある種の思考の割り切り（単純化と明晰さ）をベースにしつつ、活発な議論（批判と反論の応酬）を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。

この演習では、理論的なテキストを正確に読解することを通して、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。

具体的に取り上げるテキストは、教員の専門であるビデオゲーム（コンピュータゲーム、デジタルゲーム、いわゆるゲームのこと）に関するものも含め、現代の身近な文化実践に関するものを取り上げる。

授業の補助ツールとしてSlackを利用する予定。

[到達目標]

・テキストを正確・厳密に読むという態度を身につける。
・分析美学のトピックと考え方に触れる。
・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。
・より実証ベースの研究にとって理論がどのような役割を持ちうるかについて考える。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス
第2～14回　議論と解説（以下参照）
第15回　フィードバック

第2～14回は基本的に以下の形式で進める予定。

①Slackで課題文献を提示する。
②次回授業日までに課題文献を読んでもらい、Slackにコメント（意見・疑問・批判など）を書き込んでもらう。
③授業当日は、Slackの書き込みをもとに教員が関連するトピックや先行研究を紹介する。場合によっては、自身の書き込みについて学生に簡単なプレゼンテーションをしてもらう可能性もある。

2～3週を1サイクルとして①～③を繰り返す。課題文献は、短めの論文やインターネット上の記事を考えている。

課題文献や取り上げる話題については柔軟に選定するが、たとえば以下の論点が含まれる予定。

・定義の問題：ある文化的カテゴリーについて「～とは何か」という問いは成立するのか。またそ

メディア文化学(演習IB)(2)へ続く↓↓↓

れを問う意義は何か。
・作品の評価：作品に対する「好き嫌い」と作品の「良し悪し」はどうちがうのか（本当にちがうのか）。作品のレビューは何をしているのか。
・文化史記述：ある文化の歴史記述と作品の価値づけはどのように関係しているのか。「古典」とは何か。
・作品の解釈：作品を解釈する際に、作者の意図を気にする必要はあるのか。あるいはそもそも作品の解釈とは何をすることなのか。
・作品の分析：作品を要素に分解して扱うことの意義は何か。それをする際にどのような理論を使うのが適切なのか。

[履修要件]

演習授業のため、履修人数制限をする可能性がある（上限20人程度）。人数制限をする場合、以下の順序で優先する。

1. メディア文化学専修学部3・4回生
2. メディア文化学専修大学院生
3. 文学部他専修および他学部の3回生以上（大学院生含む）
4. 文学部の2回生
5. その他

[成績評価の方法・観点]

期末レポート：40%
平常点：60%

期末レポートの課題は「授業内で出た話題に関連して自分で問いを設定し、人を納得させられるような議論を経て答えを示しなさい（字数自由）」のようなものになる予定。

平常点は授業やSlackの書き込みにおける積極的な参加度で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

上記「授業計画と内容」に記載の通り、2〜3週ごとに提示される課題文献の読解とそれに対するコメントが求められる。

また、Slack上の他の学生の書き込みについても目を通し、意見や疑問などがあればコメントしたり

メディア文化学(演習IB)(3)へ続く↓↓↓

それに応答したりするなど、積極的に議論に参加する態度を持って授業に臨むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業外での質問は、基本的にメールまたはSlackのDMでお願いします。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学50

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	同志社大学 文化情報学部 准教授	河瀬　彰宏			
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	音楽文化の計量的研究										

[授業の概要・目的]

音楽(music)とは、時間の中に組み立てられた芸術のことである。音楽は社会の様々な仕組みの中で成立し、人々の行動様式・価値観と結びつきながら育まれてきた。そのため、ある音楽に対する評価は、音楽の性質だけに還元できるものではなく、そこに付与された社会的意味を切り離して考えることはできない。本講義では、音楽理論の基礎を学習するとともに、音楽を学際的に扱うために必要な能力を身につけることを目的とする。

[到達目標]

本講義の目標は、音楽文化に関する諸研究に対して、計量的な分析手法を適用する能力を身につけることである。本講義では、実際の音楽を解析するために、統計解析ソフトRを使用する。そのための実施環境を各自のPCで構築しておく必要がある。第01-03回は、その環境構築と操作方法の説明を行う。その後、第04-10回に音響解析。第11-14回に楽譜解析を実施していく。本講義を通じて、音楽の成立、データの作成方法、日本音楽（伝統音楽，歌謡曲，J-POP）を対象とした諸理論を概説し、最終的に、各自が好む音楽作品の実践的な分析を実施する。

[授業計画と内容]

第01回　ガイダンス１：講義内容と音楽文化研究の概要説明
第02-03回　Rの基本操作の説明
第04-10回　音響解析
第11-14回　楽譜解析
第15回　講義の総括

[履修要件]

作業・発表準備を進めるにあたり、Webに接続できる個人用のPCを所持していること。

[成績評価の方法・観点]

次の3つの項目によって評価する：
平常点：55点
最終発表・レポート：45点
ただし、演習形式の講義を展開するため、5回以上欠席した場合は、単位取得を認めない。

[教科書]

講義中に適宜資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

メディア文化学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

演習形式の講義を展開するため、復習中心で習得に当たられることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。
連絡先は初回の講義で伝える。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学51

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	京都女子大学文学部　教授 峯村　至津子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	樋口一葉作品研究										

[授業の概要・目的]

樋口一葉が文壇にデビューした明治二十年代後半、近代文学の黎明期に、女性作家たちは批評家たちの期待や揶揄といった様々な視線を集めながら、どのようにして小説を執筆していったのか、彼女たちにとって〈小説執筆〉とは何だったのか、当時の、特に女性作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での一葉文学の特質について多角的に考察する。

受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。

[到達目標]

明治期の女性作家樋口一葉の作品を読むことを通じて、一葉の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。

作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・草稿・同時代資料・同時代小説等の調査と、それらを作品読解に反映させる方法について、理解する。

[授業計画と内容]

1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。 レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。
2. 樋口一葉についての概説。発表の順番を決める。

3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。

3. 一葉の和歌と小説の関わり方について。
4. 初期作品「闇桜」について、新大系明治編注釈の検討。
5. 出世作、「うもれ木」と、掲載誌『都の花』について。
6. 露伴をはじめとする明治20年代の芸道ものと一葉作品、その共通項と差異。
7. 「暁月夜」・「ゆく雲」と一葉作品に於ける手紙の役割について。
8. 転機となった作品「やみ夜」と、主要登場人物の造型について。
9. 「ゆく雲」と語り手について。
10. 「にごりえ」とその同時代評について。
11. 「うつせみ」の草稿と発表稿について。生成批評版の作り方と活用法。
12. 「十三夜」の同時代に於ける特異性について。
13. 「たけくらべ」の主に終局部をめぐる諸問題について。
14. 「われから」と先行作品について。
15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、文学史の中での一葉の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。

期末レポート試験

メディア文化学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(演習II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
樋口一葉の作品を初出誌等からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）
樋口一葉 『樋口一葉全集第一巻～第四巻（下）』（筑摩書房、1974～1994年）ISBN:9784480730015（第一巻）（9784480730022 (第二巻) 9784480730039 (第三巻上) 9784480730046 (第三巻下) 9784480730053 (第四巻上) 9784480730060 (第四巻下)）
樋口一葉 『新日本古典文学大系明治編　樋口一葉集』（岩波書店、2001年）ISBN:9784002402246
樋口一葉 『全集樋口一葉全集　全四巻』（小学館、1996年）ISBN:9784093521017 (第一巻) （9784093521024 (第二巻) 9784093521031 (第三巻)9784093521048（別巻））
田澤稲舟他 『新日本古典文学大系明治編　女性作家集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402239
半井桃水他 『樋口一葉来簡集』（筑摩書房、1998年）

[授業外学修（予習・復習）等]

一葉の作品を、できるだけ多く読むこと。
授業で配布されるレジュメや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。
発表用レジュメやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。#160

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学52

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	京都女子大学文学部　教授 峯村　至津子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	泉鏡花作品研究										

[授業の概要・目的]

泉鏡花の初期作品を読みながら、明治二十年代、近代文学の黎明期に、作家たちがどのようにして小説を執筆していったのか、彼らにとって〈小説執筆〉とは何だったのか、当時の作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での鏡花文学の特質について多角的に考察する。主に「琵琶伝」を取り上げる予定である。

受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。

[到達目標]

泉鏡花の作品を読むことを通じて、鏡花の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。

作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。

[授業計画と内容]

1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。 レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。
2. 泉鏡花についての概説。発表の順番を決める。

3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。

3. 鏡花の随筆・談話等を読み、鏡花が触れていた先行文芸について理解する。
4. 鏡花の論説「愛と婚姻」を読み、その恋愛・結婚観を理解する。
5. 「琵琶伝」の同時代批評を精読し、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する。
6. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、当時の女訓書などと比較しつつ考察する。
7. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、鏡花の他作品のヒロインと比較しつつ考察する。
8. 「琵琶伝」の男性側の登場人物の造型について考察する。
9. 「琵琶伝」に登場する鸚鵡について、その作品内での役割を考察する。
10. 古典文学の中での鸚鵡の描かれ方と、「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。
11. 近代の先行作品の中での鸚鵡の描かれ方と「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。
12. 「琵琶伝」発表当時の現実に於ける鸚鵡について考察する。
13. 「琵琶伝」の典拠について考察する。
14. 「琵琶伝」というタイトルの意味について考察する。
15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、当時の文壇や文学史の中での鏡花の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。

期末レポート試験

履修要件

メディア文化学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学(演習II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）
泉鏡花 『鏡花全集』（岩波書店、1973～1976年）（全28巻＋別巻があります。）
泉鏡花 『新編泉鏡花集』（岩波書店、2003～2006年）（全10巻＋別冊が2冊あります。）
泉鏡花 『新日本古典文学大系明治編第20巻　泉鏡花集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402208
泉鏡花 『日本近代文学大系第7巻　泉鏡花集』（角川書店、1970年）ISBN:9784045720079

[授業外学修（予習・復習）等]

鏡花や尾崎紅葉、樋口一葉などの作品を、できるだけ多く読むこと。
授業で配布されるレジュメや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。
発表用レジュメやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学53

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies					担当者所属・職名・氏名	大阪経済大学情報社会学部　教授 中村　健二 摂南大学経営学部　准教授 塚田　義典 摂南大学経営学部　講師 梅原　喜政				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	データサイエンスのためのPythonプログラミングの基礎と応用										

[授業の概要・目的]

昨今、データサイエンスやAI開発に用いられる等、Pythonに注目が集まっています。Pythonは、高度な処理内容を簡素にプログラミングできるため、膨大なデータの正確な解析や、作業の自動化等、私達の様々な作業の効率を改善できます。そこで、本講義では、Excel操作の自動化や、Webマイニング、GUIアプリケーションの開発を題材としてプログラミング言語Pythonのプラグラミングスキルの習得を目指します。

[到達目標]

以下の事項を習得します。
ープログラミング言語Pythonの言語仕様の理解
ーExcelの操作の自動化技術
ーWebマイニング技術
ーGUIアプリケーション開発技術

[授業計画と内容]

１．Pythonの概要と基礎
　　教科書範囲：p1-p34
２．繰り返し処理と条件分岐
　　教科書範囲：p35-p52
３．シーケンスと文字列
　　教科書範囲：p53-p83
４．関数
　　教科書範囲：p84-p104
５．クラス
　　教科書範囲：p105-p119
６．モジュールとライブラリ
　　教科書範囲：p120-p132, p169-p180
７．ファイル入出力
　　教科書範囲：p133-p146
８．例外処理
　　教科書範囲：p147-p168
９．Webスクレイピング
　　教科書範囲：p201-p213
１０．Webマイニング
　　教科書範囲：p201-p213
１１．GUIアプリケーションの作り方
　　教科書範囲：p231-p239
１２．データ自動解析アプリの開発

メディア文化学（演習II）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習II）(2)

教科書範囲：p182-p200
１３．画像処理アプリの開発
教科書範囲：p214-p230
１４．アリ巡回シミュレーションアプリの開発
教科書範囲：p240-p253
１５．アリ巡回シミュレーションアプリの改良
教科書範囲：p240-p253

授業回数はフィードバックを含め全15回とします。
なお、本授業計画は課題の出来栄えや学生の理解度に応じて変更する場合があります。

※授業担当
１～５回：梅原喜政
６～１０回：中村健二
１１～１５回：塚田義典

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常試験(演習課題100%)で評価します。

[教科書]

田中成典他 『Python教科書』（I/O BOOKS）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容は実習を中心とするため、教科書の内容について、事前の予習を行うものとします。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学54

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	国際日本文化研究センター 研究部 教授 松田　利彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	韓国語資料演習										

[授業の概要・目的]

朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、学術論文の読解や資料収集ができるようトレーニングをします。段階的に外国語の資料を使いこなす技術を身につけられるように、演習は大きく３つのパートに分かれています。
①研究テーマを探す＝近年の近代朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文（韓国語）を講読します。受講者には、関心に応じて、そこで紹介されている論文を選んでもらいます。
②研究テーマに関わる専門論文を入手する＝韓国語論文をインターネットで入手する方法を講義します。
③韓国語論文の読み方を学ぶ＝①で選んだ論文を実際に読んでいきます。論文に特徴的な表現を重点的に学ぶとともに、希望があれば、韓国語の新聞・雑誌記事、回想録などの一次史料を読むことも可能です。昨年度は、植民地期医学史に関わる論文、京城帝国大学で学んだ朝鮮人学生の回顧録などを読みました。

[到達目標]

１）　インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。
２）　韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。
３）　朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。

[授業計画と内容]

1回目　朝鮮近現代史についての概説
2～4回目　近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文の精読
5回目　韓国語の論文・資料の調べ方についての講義
6～15回目　受講者の関心に応じた専門論文・資料の講読

[履修要件]

韓国語の学習歴が求められます（受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します）。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的事件や資料の背景について自分で調べてもらってミニ報告をしてもらうこともあります。

メディア文化学（演習II）　(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習II） (2)

[成績評価の方法・観点]

論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

[授業外学修（予習・復習）等]

2回目以降の講読・精読については予習を必須とします。担当箇所は割り当てますが、自分の担当以外の部分も予習してくる意欲があればなおよいです。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学55

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1920年代初めの党の結成から抗日戦争―中華人民共和国樹立までの30年ほどの歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1920年前後の結党から1949年の中華人民共和国樹立に至る30年ほどの中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。中国共産党の結成、国共合作、北伐と国共合作の終焉、農村革命、中華ソヴィエト共和国、長征、抗日民族統一戦線、抗日戦争、延安整風運動、国共内戦とその帰趨、中国革命とソ連・コミンテルン
15回　中国革命と中国共産党について、総合討論を行う。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

メディア文化学（演習II）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習II）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学56

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む（続）										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1949年の中華人民共和国樹立から2000年ごろまでの半世紀の歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで、党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1949年の中華人民共和国建国から2000年ごろに至る半世紀の中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。人民共和国建国と朝鮮戦争、過渡期の総路線と社会主義経済の建設、土地改革と農村、中国の計画経済、百家争鳴・百花斉放と反右派闘争、大躍進政策と大飢饉、文化大革命、林彪・四人組の失脚、華国鋒体勢、改革・開放政策と民主化運動、「歴史決議」と党の歴史認識。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多い。また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

メディア文化学（演習II）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習II）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学57

科目ナンバリング	G-LET37 78946 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習IIIA） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草 文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題										

[授業の概要・目的]

本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する専修の中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。

研究テーマに関する個人面談ののち、各回に本年度に卒論執筆を予定している学部生1名ないし2名が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。

必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように充分に準備して臨むことが期待されている。

[到達目標]

メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。

[授業計画と内容]

第1回ー第4回　研究テーマ相談会（個人面談）
第5回　次年度卒論を執筆する予定の学部生全員による、それぞれの研究テーマに関するポスターセッション（ショートプレゼンテーション）
第6回ー第15回　本年度卒論を書く予定の学部生1人ないし2人による報告とディスカッション

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（報告を必ず担当することを必須とする。報告の内容と、ディスカッションへの貢献を評価する。）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

メディア文化学（演習IIIA）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習IIIA）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトおよびDiscordを利用する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学58

科目ナンバリング	G-LET37 78947 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習IIIB） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草 文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題　B										

[授業の概要・目的]

本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する専修の中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。

各回、本年度に卒論執筆を予定している学部生1名ないし2名が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。

必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように充分に準備して臨むことが期待されている。

[到達目標]

メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。

[授業計画と内容]

第1回ー第13回　卒論中間報告
第14回　卒論執筆に関するWS
第15回　次年度卒論を執筆する予定の学部生による自らのテーマに沿った研究方法に関するショートプレゼンテーションのセッション

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（院生はコメンテータを必ず担当することを必須とし、コメントの内容とディスカッションへの貢献を評価する。）

[教科書]

使用しない

メディア文化学（演習IIIB）(2)へ続く↓↓↓

メディア文化学（演習IIIB）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAおよびDiscordを利用する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学59

科目ナンバリング	G-LET37 78948 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習IIIC） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草 文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の諸問題（特別）										

[授業の概要・目的]

多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。
本演習は、本年度に卒論執筆を予定している学部生の報告について、その方法論や先行研究に関するディスカッションを行う。専修に所属する学生の幅広い関心領域を総覧し、ディスカッションに参加することで、メディア文化研究の基礎力を鍛える。

[到達目標]

他の講義や演習で得た知識や技法を、自らの研究テーマに沿って実際に使いこなし、自らのものすることが目標である。

[授業計画と内容]

メディア文化学研究の方法論について【4回】
ジェンダー論、マスメディア論、ゲーム研究、映画研究などの分野別論文計画の検討【10回】
フィードバック【1回】

[履修要件]

本演習は、交換留学や長期病気療養などの理由により演習IIIAや演習IIIBが受講できなかった専修生を対象とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のディスカッションへの参加、自らの研究テーマに関する発表の担当などにより評価する）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の研究計画の発表のために先行研究を調べ、他の論文に示されている資料の扱い方や研究方法について知見を深めるとともに、適切な資料を集める。自主的、主体的な取り組みが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

KULASISに掲載している。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学60

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習IIID） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草 文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題（特別）										

[授業の概要・目的]

多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。

本演習は、本年度に卒論執筆を予定している学部生の報告について、その方法論や先行研究に関するディスカッションを行う。専修に所属する学生の幅広い関心領域を総覧し、ディスカッションに参加することで、メディア文化研究の基礎力を鍛える。

[到達目標]

他の講義や演習で得た知識や技法を、自らの研究テーマに沿って実際に使いこなし、自らのものすることが目標である。

[授業計画と内容]

メディア文化学研究の方法論について【4回】
ジェンダー論、マスメディア論、ゲーム研究、映画研究などの分野別論文計画の検討【10回】
フィードバック【1回】

[履修要件]

本演習は、交換留学や長期病気療養などの理由により演習IIIAや演習IIIBが受講できなかった専修生を対象とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のディスカッションへの参加、自らの研究テーマに関する発表の担当などにより評価する）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の研究計画の発表のために先行研究を調べ、他の論文に示されている資料の扱い方や研究方法について知見を深めるとともに、適切な資料を集める。自主的、主体的な取り組みが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

KULASISに掲載している。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学61

科目ナンバリング	G-LET37 7M432 SJ36										
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　喜多　千草 文学研究科　准教授　松永　伸司				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題（大学院）										

[授業の概要・目的]

修士論文および博士論文作成に向けて、①テーマの設定、②先行研究の評価、③議論構築、④文献調査、⑤聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。

[到達目標]

修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。

[授業計画と内容]

第1回ー第2回: 研究テーマに関する個人面談
第3回ー第14回: 各回とも、１名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、①研究の意義、②先行研究、③論旨、④文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。
第15回：フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（報告内容50%、および他者の報告に応じた適切な発言内容および発言頻度50%）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
なし

[授業外学修（予習・復習）等]

各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。

（その他（オフィスアワー等））

専修のDiscordを連絡手段として活用する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学62

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小野沢　透				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	米・中東関係の諸問題										

[授業の概要・目的]

以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが，それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また，米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっていると言われるが，米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが，やや概説的に，19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。

[到達目標]

米・中東関係の歴史的展開について，全体的な見通しを把握するとともに，重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。
また，中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて，近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識，およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。

[授業計画と内容]

以下の各項目について，それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。

1. イントロダクション（1回）
2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回）
3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回）
4. オフショア・バランシングの時代（1960-80年代）（3回）
5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回）
6. 　まとめとフィードバック（1回）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
小野沢 透 『幻の同盟： 冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都女子大学文学研究科　准教授 箱田　恵子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近代中国と仲裁裁判制度―米国の影響を中心に										

[授業の概要・目的]

この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、特に仲裁裁判制度の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げ、清朝の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を講義する。その際、仲裁裁判の推進に積極的であり、東アジアでの独自の使命を自任していた米国が果たした役割や影響について検討し、近代の米中関係を新たな視点から論じる。米国の影響のもと清末中国で形成された独特な仲裁裁判観は、近年の中国の国際秩序に対する姿勢の背景を理解するてがかりとなろう。また、日露戦争後の満洲における日本の勢力拡大に対し清朝は仲裁裁判を利用して抵抗を試みるが、それを報じて国際世論を喚起したタイムズ通信員モリソンの言動について、当時の米国の新聞・雑誌にみえる中国論との関係を検討する。それにより、20世紀初めの中国の変化とそれが米国においていかに評価され、東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのかを講義する。

[到達目標]

受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解する。さらに近代において世界的に注目されていた仲裁裁判制度が、清朝の外交や東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのか、米国の果たした役割や影響を中心に学び、特殊な関係と呼ばれる近代の米中関係が、中国における近代国際関係の受容や近代外交の形成に与えた影響を理解する。それと同時に、中国における変化を米国のメディアがいかに評価して報じたのか、またその報道が中国をめぐる国際関係にいかなる影響を与えたのかについても理解する。以上により、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から考察することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。

1.近代における仲裁裁判制度の発展
2.東アジアの伝統的国際秩序
3.清朝の対外体制の変化
4.中国における仲裁裁判制度の紹介と米国の果たした役割
5.華工虐待問題をめぐる対スペイン交渉と米国の自由移民原則の影響
6.台湾出兵と清朝の「公評」提起
7.琉球処分と仲裁裁判：グラント元大統領の調停と日清の対応
8.ベトナムをめぐる清仏紛争と仲裁裁判：駐清米国公使ヤングの役割
9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観
10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化：米国の門戸開放宣言
11.日露戦争後の中国の変化
12.第二辰丸事件と清朝による仲裁裁判提起：満洲問題への波及
13.モリソンの活動とモリソンパンフレット：米国の雑誌記事の分析を中心に
14.モリソンの活動と中国への影響

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

15.フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
毎回資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学64

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学人間科学研究科　教授 藤目　ゆき				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	占領軍被害の研究										

[授業の概要・目的]

連合国占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合国占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い歳月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。

[到達目標]

(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。

(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。

(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入いったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。

[授業計画と内容]

各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。

１．研究の意義と方法
２．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害
３．占領軍労務動員と労働災害死傷
４．暴行・傷害・殺人
５．軍事演習被害・朝鮮戦争被害
６．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）ISBN:ISBN978-4-86617-157-9
授業中に配布するレジュメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）
『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて，授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学65

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

　とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食をめぐる研究の方法
2　明治大正期の食
3　アジア太平洋戦争までの食
4　戦後の食
5　牛乳の歴史学
6　品種改良の歴史学
7　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末にレポートを課す。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

現代文化学66

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食糧戦争としての第一次世界大戦
2　有機農業の歴史
3　毒ガスと農薬の歴史
4　トラクターの歴史
5　戦時期の農村女性たち
6　食糧戦争としての第二次世界大戦
7　フィードバック

[履修要件]

前期の授業を受講しているものとして授業を進める。

[成績評価の方法・観点]

講義の終わり頃に筆記試験を課す予定

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学67

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近代天皇制と伝統文化										

[授業の概要・目的]

「近代天皇制と伝統文化」と題する本講義においては、近代国民国家とともに成立した近代天皇制（天皇をいただく国家の制度）が、同時に、前近代以来の文化を再構築した「伝統文化」を不可欠としたことを論じる。

　ここでいう「伝統文化」とは、前近代に起原しながらも、近代において欧米/中国との関係性において形成されてきたものである。大嘗祭・陵墓・国花としての桜・古社寺・文化財・古都・郷土愛などを俎上に上げる。また近代天皇制の伝統文化によって、第一次世界大戦後に先進国のなかで少数となった君主制を存続できる大きな原因となったこと、20世紀に地方城下町では藩主に帰依した地方の郷土愛が天皇を重んじる愛国心に包摂されそれが社会の大きな基盤となったこと、そして天皇制における「伝統文化」が極めて現代的な政治課題であること、を論じる。近代天皇制の特質として、記紀神話に基づく、天照大神の血統に代々の天皇が存在する神学についても明らかにする。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「近代天皇制と伝統文化」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・近代天皇制と「史実と神話」
・19世紀の大嘗祭
・20世紀の大嘗祭
・19世紀の陵墓
・20世紀の陵墓
・伝統文化の創造と近代天皇制
・皇室の神仏分離と泉涌寺
・近代皇室の仏教信仰
・奈良女高師の修学旅行と奈良・京都
・奈良女高師の修学旅行と伊勢・東京
・桜の近代―弘前・京都
・桜の近代―帝国
・郷土愛と愛国心をつなぐもの
・20世紀の日本の文化財保護と伝統文化
・現地保存の歴史と課題

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。積み残した課題は翌年度に論じる。フィードバックについては授業中に指示する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制の文化史的研究―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「近代天皇制と伝統文化」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学68

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都らしさ」の近代と遊廓・花街										

[授業の概要・目的]

近代京都のイメージとして、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期に南蛮憧憬とともに、〈合わせ鏡〉のように祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることには、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮があった。後半には、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娼妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。また娼妓の性病快癒や年季明けへの願いに向き合う、民衆宗教・金光教の布教に迫る。民衆史の方法として、京都や姫路の教師が娼妓の悩み・願いを書き留めた「祈念帳」を分析する。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・明治維新と京都
・1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」
・1895年の平安遷都千百年紀念祭と平安時代
・1907年、与謝野寛・木下杢太郎・北原白秋・吉井勇『五足の靴』
・1917年、入江波光による延命寺「キリシタン墓碑」の発見
・1920年、茨木・千提寺・ザビエル画像の発見
・大正期、南蛮ブームと南蛮文化研究
・「祇園もの」の文学
・鴨川・東山の周縁性―性・差別・死
・近代京都の花街・遊廓
・大衆社会と売買春の盛行
・民衆宗教としての金光教
・金光教と歌舞伎・映画（マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら）
・金光教と遊廓・花街布教
・民衆の肉声に迫る「祈念帳」の史料性

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）
高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学69

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	モノからみる中国近代史										

[授業の概要・目的]

近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。

[到達目標]

中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.中国経済の仕組み
3.中国茶貿易の発展
4.アジア間競争と中国茶の行方
5.アヘン貿易の発展
6.外国アヘンと中国アヘン
7.禁煙運動とその後
8.清代中国の米流通
9.動乱と外国米
10.羊毛貿易の勃興
11.羊毛貿易の展開
12.清代大豆貿易の展開
13.満洲大豆貿易の発展と東北地域の変動
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学70

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史　近代中国										

[授業の概要・目的]

グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきていた。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性が高い。新型コロナウィルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。

[到達目標]

開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.明代商業の発展と牙行
3.東アジア海域交流と仲介者
4.明代後期～清代中期の海上貿易の展開と仲介者
5.外国人商人と買弁（1）
6.外国人商人と買弁（2）
7.苦力貿易の盛衰と客頭（1）
8.苦力貿易の盛衰と客頭（2）
9.開港場貿易の発展と行桟（1）
10.開港場貿易の発展と行桟（2）
11.工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡
12.前近代東南アジア海域の仲介者
13.前近代地中海世界の仲介者
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学71

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大学文書館　教授　　西山　伸				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都大学百二十五年史」を読む　2										

[授業の概要・目的]

1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、戦後改革から現在までを対象とする。

[到達目標]

現代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本現代史資料を読み込む能力を養う。

[授業計画と内容]

1　ガイダンス
2　戦後高等教育改革
3　新制京都大学の発足
4　京都大学における一般教育
5　占領期の学生
6　高度経済成長下の拡大
7　京大紛争（1）
8　京大紛争（2）
9　諸問題への対応と学生生活
10　教育・研究体制の再編
11　大学改革（1）
12　大学改革（2）
13　国立大学法人京都大学の発足
14　京都大学の現在
15　まとめ（フィードバック）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。

[教科書]

使用しない

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学72

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	金沢大学人間社会研究域　教授 能川　泰治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	大阪城の近現代史　－近代都市史研究として－										

[授業の概要・目的]

大阪城を建てたのは誰か。この問いに対しては、誰もが豊臣秀吉を思い浮かべるであろう。そのこと自体は誤りではない。それでは、現在の大阪城天守閣はいつ誰が建てたのか。そして、現在の壮大な石垣と濠はいつ築かれたものなのか。そこに秀吉の築いた大坂城の痕跡は残されているのか。現在の大阪城に関する、これらの基本的な問いに対して正確に答えられる人は、意外に少ないように思われる。本講義はこれらの重要論点を、単なる近現代の城郭史としてではなく、近代都市史研究の視点で、当時の国内外の政治・社会の動向をふまえながら語ることを課題とする。

[到達目標]

幕末維新から戦後にかけての日本の近現代史について、近代都市史研究の視点で理解を深める。そして、史料の収集・解読方法をはじめとする歴史学の手法を習得し、歴史遺産の保存と活用についての考え方を深化させる。さらに、講義内容を批判的に再考することで自らの論文作成能力を養う。

[授業計画と内容]

「大阪城の近現代史」というテーマで、幕末維新期から高度経済成長期にかけての都市史について、下記のような内容で講義する。

第1回　開講ガイダンス
第2回　近代都市史研究の現状と課題
第3回　基礎知識習得のための序論
第4回　幕末維新期の大阪城
第5回　陸軍史料にみる大阪城
第6回　大阪城天守閣復興（その1）
第7回　大阪城天守閣復興（その2）
第8回　大阪城天守閣復興（その3）
第9回　十五年戦争と大阪城（その1）
第10回　十五年戦争と大阪城（その2）
第11回　戦後の大阪城復興（その1）
第12回　戦後の大阪城復興（その2）
第13回　戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その1）
第14回　戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その2）
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

現代史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない
毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

（参考書）
岡本良一 『大坂城』（岩波新書，1970）ISBN:978-4004131038
渡辺　武 『図説　再見大阪城』（大阪都市協会，1983）
木下直之 『わたしの城下町』（筑摩書房，2007）ISBN:978-4480098931

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記3点の参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。
集中講義終了後に大阪城公園と天守閣を各自で実地見学するのが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学73

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授　帯谷　知可				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相										

[授業の概要・目的]

この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。

[到達目標]

中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。

[授業計画と内容]

以下の予定に従い、講義を行う。

＊旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週）
＊民族史の記述（第3-4週）
＊ペレストロイカと歴史の見直し （第5-7週）
＊独立後の新しいナショナリズムと歴史研究 （第8-9週）
＊評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週）
＊新しい正史（第13-14週）
＊まとめ（第15週）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
宇山智彦(編著）『中央アジアを知るための60章』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究の入門書）
小松久男『革命の中央アジア―あるジャディードの肖像』（東京大学出版会）ISBN:3-13-025027-2（ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献）
宇山智彦『「カザフ民族史再考―歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol.2, No. 1 (1999)』（国立民族学博物館地域研究企画交流センター）（ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文）
帯谷知可『「英雄の復活―現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』（東京大学出版会）ISBN:4-13-034185-5（ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文）
帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）ISBN:9784750346373（ウズベキスタン地域研究の入門書）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ　obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp （[AT]を@に替えてください）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学74

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　小関　隆				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦と現代世界										

[授業の概要・目的]

いうまでもなく、第二次世界大戦はその後の現代世界を強く方向づける出来事であった。最新の研究水準に則してこの戦争を理解することは、現代世界に身を置き、それを乗り越えようとする人々にとって、基礎的な教養といってもよい。主としてヨーロッパ現代史の文脈に据えて、きわめて複合的な第二次世界大戦の全体像を把握し、このトラウマ的経験がその後の世界に与えた影響を考察することが授業の課題となる。なお、2023度の授業は2022年度の改訂版であり、重複する内容が多く含まれる。

[到達目標]

高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。

[授業計画と内容]

(1) 第二次世界大戦とは（３回）
(2) 1930年代のヨーロッパ（２回）
(3) 第二次世界大戦の展開①1939年９月～1941年12月（３回）
(4) 第二次世界大戦の展開②1941年12月～1943年２月（３回）
(5) 第二次世界大戦の展開③1943年２月～1945年８月（３回）
(6) 総括（１回）

授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。

[履修要件]

前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学75

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　小関　隆				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中立という選択肢：アイルランドの第二次世界大戦										

[授業の概要・目的]

前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。この授業もまた2022年度の改訂版であり、重複する内容が多いが、2023年度は特に、エールの首相としてイギリスとアメリカから執拗な参戦圧力を受けながらも中立を堅持したエールの首相デ・ヴァレラに注目する。20世紀の戦争において中立はどれほど有効な選択肢たりうるか、授業の中核的な問いはこれである。

[到達目標]

中立国の視点から第二次世界大戦を把握すると同時に、中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。

[授業計画と内容]

(1) 第二次世界大戦の中立国（１回）
(2) アイルランド・ナショナリズムとデ・ヴァレラ（２回）
(3) 中立の選択（１回）
(4) 「緊急事態」の到来（１回）
(5) 検閲国家（１回）
(6) ドイツの脅威（１回）
(7) 参戦圧力と南北統一（１回）
(8) アメリカン・ファクター（１回）
(9) 「友好的中立」と戦争協力（１回）
(10) 北アイルランドの大戦経験（１回）
(11) 戦後（１回）
(12) 「デ・ヴァレラのアイルランド」（１回）
(13) 総括（１回）

授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。

[履修要件]

前期の授業を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学76

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　伊藤　順二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ロシア帝国末期のジョージア										

[授業の概要・目的]

19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。

ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。

[到達目標]

ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2,3回：「半アジア人」
第4,5回：露土戦争
第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教
第8,9回：油田とマンガン鉱山
第10,11回：マルクス主義サークル
第12,13回：義賊と革命
第14回：1905年
第15回：おわりに

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜３限とする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学77

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　伊藤　順二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦期の南コーカサス										

[授業の概要・目的]

南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。

[到達目標]

第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命
第4,5回：バルカン戦争と戦争準備
第6回：敵性国民としてのドイツ人
第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」
第9,10回：社会主義者の戦争
第11回：ロシア革命とカフカス
第12回：ジョージア民主共和国の成立
第13,14回：民主共和国と地域問題
第15回：おわりに

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜３限とする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学78

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授　山口　元樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係　Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East										

[授業の概要・目的]

東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものと見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。

Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, refering to historical documents.

[到達目標]

・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。
・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。

Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.

[授業計画と内容]

第1回　東南アジアのイスラームの基礎知識
第2回　西アジアのムスリム商人と東南アジア
第3-4回　東南アジアにおけるイスラーム化の始まり
第5回　ワリ・ソンゴ（九聖人）とジャワのイスラーム
第6-7回　マレー世界の形成と発展
第8回　東南アジア古典文学のなかのイスラーム
第9-10回　アラブ地域との学問ネットワーク
第11-12回　東南アジアからのマッカ巡礼
第13-14回　植民地支配の進展と抵抗運動
第15回　まとめ
※講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
6-7 The Formation and Development of the Malay World
8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
9-10. Intellectual Network with the Arab region
11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)
Final report (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学79

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学国際関係学部 准教授 須藤　瑞代				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ジェンダーからみる近代中国史										

[授業の概要・目的]

本講義では、19世紀末から20世紀前半にかけての中国におけるジェンダー秩序の変容について分析する。具体的には以下の三つに重点をおいて講義を行う。
（１）思想：国家形成と密接に関連して論じられた「女権」や、前近代から続く節婦烈女の褒揚に関する議論を分析し、ジェンダー秩序の変容がどのように展開したのかを考察する。
（２）メディア：『婦女雑誌』『上海婦女』など複数の女性向け雑誌をとりあげ、各雑誌の特徴をふまえつつ、どのような議論が展開され、中国におけるジェンダー秩序にいかなる影響を与えたのかを分析する。
（３）日中女性交流：日本人女性記者竹中繁は1926～27年の半年間にわたり中国の各都市を旅行し、女性たちと交流した。その中には、宋慶齢など著名な女性から、女性教員や女性記者などほぼ無名の人々も含まれる。竹中繁の視線を通して当時の中国社会を考察し、日中関係史の中で女性間のつながりがどのような意味を持つものであったのか、双方の社会のジェンダー秩序の変容とどのようにかかわっていったのかを考察する。

[到達目標]

近代における中国社会の変容について、ジェンダーに着目して分析できるようになる。
近代中国女性史に関する基本的知識を身につける。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション
第２回　「女権」をめぐる議論 ①
第３回　「女権」をめぐる議論 ②
第４回　女子学生の登場
第５回　「節婦烈女」の褒揚
第６回　『婦女雑誌』にみる日本女性像
第７回　日本人女性記者竹中繁の半生
第８回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）①
第９回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）②
第10回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）③
第11回　竹中繁による日中双方向レポート
第12回　竹中繁の中国再訪・市川房枝とともに（1940年）
第13回　『女声』にみる日本女性の不在
第14回　『上海婦女』にみる「つながる」女性たち
第15回　フィードバック

現代史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
須藤瑞代 『中国「女権」概念の変容――清末民初の人権とジェンダー』（研文出版、2007年）
村田雄二郎編 『「婦女雑誌」からみる近代中国女性』（研文出版、2005年）
山﨑真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅 『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六#12316二七年の中国旅行日記を中心に』（研文出版、2018年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡は電子メール（mizuyos@cc.kyoto-su.ac.jp)で行ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学80

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　福家　崇洋				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本社会運動史										

[授業の概要・目的]

明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想がはたした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。

[到達目標]

日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。

[授業計画と内容]

1 ガイダンス
2 自由民権運動
3 「初期社会主義」と労働運動
4 アジア主義と対外硬運動
5 2つの戦争と「大正デモクラシー」
6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動
7 国家改造運動
8 無産政党と社会民主主義の形成
9 総力戦とクーデター未遂事件
10 満洲事変と「転向」　　国家社会主義の台頭
11 昭和維新運動　　テロと叛乱未遂
12 天皇機関説事件と宗教運動
13 反ファシズム統一戦線
14 占領下の民主化運動
15 まとめ

なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。

[履修要件]

特になし

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅰ』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅱ』（ちくま新書、2023年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　大正篇』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　戦前昭和篇』（ちくま新書、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学81

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　小堀　聡				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	現代日本社会経済史										

[授業の概要・目的]

第1次世界大戦以降における日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く「経済大国」化すると同時に、深刻な公害や自然破壊を引き起こした日本の経験について理解を深めることは、現在の日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、人類の持続可能性を模索することにも資するだろう。

[到達目標]

現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。

[授業計画と内容]

１．　日本経済史の概観
２．　第１次世界大戦とその影響
３．　不況下の成長：１９２０年代
４．　昭和恐慌と経済政策
５．　財閥と新興コンツェルン
６．　戦前期の労使関係
７．　侵略と開発
８．　「大東亜共栄圏」とその崩壊
９．　占領、復興、特需
１０．高度経済成長
１１．公害の諸相
１２．安定成長
１３．開発主義と企業社会
１４．長期停滞
１５．フィードバック

受講者の関心等に応じて変更の場合あり。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

中間レポート（25%）＋期末レポート（75%）によって評価する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代　第4版』（東京大学出版会、2021）

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史　新版―江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学82

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　小堀　聡				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東京湾からみる日本の近現代										

[授業の概要・目的]

本講義の目的は、近現代日本の社会経済史を、東京湾という「地域」に注目しつつ追究することである。本講義では東京湾を、20世紀後半における世界経済の大変動である「東アジアの奇跡」の先駆と位置付けたうえで、その社会変動が人びとの生産・生活と自然環境とにどう影響したのかを、具体的に検討する。以上を通じて、地域社会の持続可能性を多角的・長期的な観点から考察する能力を養いたい。

[到達目標]

地域社会について、多角的・歴史的な視点から考察する能力を養う。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）

1　世界史のなかの東京湾【２週】
2　明治と東京湾【２週】
3　工業地帯の形成―大正期から敗戦まで【３週】
4　埋立競争の勃発―占領から1960年代初頭【２週】
5　開発と異議申し立ての時代――1960～70年代【３週】
6　グローバリゼーションと東京湾―ディズニーランド以降【２週】
7　フィードバック【１週】

受講者の関心等に応じて変更の場合あり。

[履修要件]

前期の講義を履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

期末レポートによって評価する。

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
小堀聡 『京急沿線の近現代史』（クロスカルチャー出版、2018）ISBN:9784908823459
三浦茂一ほか 『千葉県の百年』（山川出版社、1990）ISBN:4634271206

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する自治体史・社史などに積極的に目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

現代文化学83

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　小野寺　史郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦と東アジア										

[授業の概要・目的]

今から百年あまり前に起きた第一次世界大戦は、それまでの西洋世界の在り方を一変させたが、同時に日本を含む東アジアにも大きな変化をもたらした。近年の研究成果を踏まえ、第一次世界大戦が東アジアの国際関係および政治・社会に及ぼした影響について解説する。

[到達目標]

東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。

[授業計画と内容]

第１回　ガイダンス
第２回　第一次世界大戦の概要
第３回　開戦時の東アジア
第４回　第一次世界大戦の勃発と東アジアの反応
第５回　二十一か条要求とその影響
第６回　第一次世界大戦の東アジア社会への影響
第７回　中華民国の「以工代兵」政策
第８回　中華民国の参戦問題と国内対立
第９回　シベリア戦争と東アジア
第10回　第一次世界大戦の終結と東アジアの反応
第11回　パリ講和会議と東アジアの反応（１）
第12回　パリ講和会議と東アジアの反応（２）
第13回　戦間期の国際関係と東アジア
第14回　まとめ
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点40%とレポート60%による。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学84

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授 野田　仁				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中央アジアの東と西：境界をめぐる歴史と史料										

[授業の概要・目的]

中央アジアの歴史のなかで、たとえば「トルキスタン」というよく知られた地理的な名称を取り上げても、その境界は明確ではなく、歴史史料における言及も多様であった。本講義では、中央アジア史上の境界に着目し、前近代のさまざまな表象を検討する。とりわけ、現在は中国新疆ウイグル自治区となっている東側と、ロシア帝国・ソ連領であった西側との間の境界・国境に焦点を当て、それが次第に近代的な国境となる過程をたどりたい。したがって、本講義が重点を置くのは、18世紀から20世紀初頭にかけての時期である。

[到達目標]

中央アジアの歴史の流れを、その周辺の大国との関係の推移と共に理解し、説明できるようになる。

近代的な国境の成立過程を、中央アジアの事例から理解して、説明できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて順序などを変更する可能性がある。

第1回：イントロダクション（中央アジアの地理と境界）
第2回：地図からわかること
第3回：東と西のつながり
第4回：中央アジアの南北の違い、ポスト・モンゴル時代
第5回：ジューンガルの時代
第6回：露清関係とカザフの外交１
第7回：露清関係とカザフの外交２
第8回：清朝の東トルキスタン統治
第9回：コーカンド・ハン国の東方関係
第10回：露清間の境界画定と条約
第11回：グレートゲームとパミールの境界
第12回：探検・調査の時代
第13回：辛亥革命とロシア革命による人の移動
第14回：国境を越える人・モノ・情報の動き
第15回：まとめ

[履修要件]

特になし

現代史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
野田仁 『露清帝国とカザフ=ハン国』（東京大学出版会，2011年）ISBN: 9784130261395
小沼孝博 『清と中央アジア草原: 遊牧民の世界から帝国の辺境へ』（東京大学出版会，2014年）ISBN:9784130261494
吉田金一 『近代露清関係史』（近藤出版社，1974年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の中で紹介する参考文献を参照し、必要に応じて関連する論文も探し、参照することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業中の質問、メールによる質問を受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学85

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学経営学部　教授 石川　亮太				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	朝鮮近代の社会・経済										

[授業の概要・目的]

朝鮮近代史の主要な論点について経済・社会を中心として概説する。とくに注目したいのは前近代の朝鮮社会との連続性である。従来の研究では、開港後の朝鮮が対日貿易を通じて日本の資本主義な再生産構造の中に組み込まれていく過程に注目してきた。それは開港後の日朝関係を、植民地化に向かう直線的な道程として目的論的に捉える歴史観とも親和的であった。しかし朝鮮社会の側に視点を置いて考えてみると、開港後の対日関係に触発されたかに見える変化が、実はそれ以前からの長期的なトレンドのなかで理解すべきものである場合が多々あることに気づく。こうした見方に立って近年の研究成果を整理し通説的な見方を再検討したい。

[到達目標]

・朝鮮近代史の主要論点について学説史的な背景とともに理解できるようになる。
・朝鮮近代の経済・社会について日本や中国とも比較しつつ理解できるようになる。

[授業計画と内容]

以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【　】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。
１．この講義の視座と問題意識【１週】
２．朝鮮後期の経済トレンドについての近年の議論【３週】
３．開港に伴う朝鮮経済の変化【３週】
４．植民地化に伴う朝鮮経済の変化（１）農業と産米増殖計画【２週】
５．植民地化に伴う朝鮮経済の変化（２）工業化【２週】
５．アジア経済史における朝鮮の位置づけ【２週】
５．まとめと総括【２週】
※フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加に対する平常点（５０パーセント）と学期末レポート（５０パーセント）により評価する。

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学86

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	２０世紀日本技術社会史										

[授業の概要・目的]

特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。

[到達目標]

技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から歴史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　現在の技術観
第3回～第4回　技術社会史の理論的基礎
第一部　帝国
第5回　鉄筋コンクリートと近代のアジア
第6回　情報通信と帝国
第7回　飛行機と戦争
第二部　戦後日本
第8回　鉄道と労働
第9回　家電と女性
第10回　車と家族
第三部　情報化社会の日本
第11回　エネルギーと環境
第12回　コンピュータと子供
第13回　ロボットと国民
第14回　まとめ
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

現代史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学87

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー										

[授業の概要・目的]

日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。

[到達目標]

グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から社会運動・思想史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
第２回　「レフト」というのは何か
第３回　ヨーロッパの資本主義と社会主義
第４回　ロシアの帝国と日本のアナキスト
第５回　帝大セツルメント
第６回　インターナショナルと日本の共産主義
第７回　帝国とレフト
第８回　脱植民地化と戦後のレフト
第９回　女性労働運動
第１０回　国鉄労働組
第１１回　べ平連
第１２回　１９６８の第三世界反帝国主義
第１３回　日本のヒッピーとカリフォルニア
第１４回　まとめ
≪期末試験≫
第１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

現代史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学88

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	近畿大学文芸学部　准教授 人見　佐知子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	遊廓・性売買（買売春）の近現代史										

[授業の概要・目的]

本講義では、一次史料を読み解きながら女性史やジェンダー史の視座から近代日本の性売買や遊廓・公娼制度の歴史を考えていく。性売買は社会構造の歴史的性格と不可分なので、性売買の歴史を考えることは近代社会の歴史的特質についての理解を深めることにもつながる。また、近代日本の公娼制度と深く関係する日本軍「慰安婦」問題や、現代の性売買をめぐる諸問題についても考えたい。

[到達目標]

近代日本の性売買の歴史を理解するとともに、近代社会の歴史的特質について考察を深める。また、一次史料を読み解く方法や、女性史・ジェンダー史の射程についても理解を得る。さらに、歴史の理解をふまえて現代社会の諸問題を考察する視座を養う。

[授業計画と内容]

1〜2　ガイダンス：用語の説明と近代日本の性売売買研究の動向について
3〜5　娼妓と近代日本の公娼制度：娼妓の手紙を読む
6〜8　性売買の拡大とその背景：芸娼妓周旋業者の経営史料を読む
9〜10　廃娼運動の展開と性売買の変容：貸座敷経営者の史料を読む
11〜13　戦時下の性：日本軍「慰安婦」問題を中心に
14　戦後〜現代へ
15　まとめ
※受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性があります。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（30点）と期末レポート（70点）により総合的に判断する。

[教科書]

使用しない
レジュメプリントもしくはPDFファイルを配布予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を適宜読み、予習・復習をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学89

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	広島大学人間社会科学研究科 教授 市川　浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目											

[授業の概要・目的]

「冷戦（東西冷戦）とは，第2次世界大戦後，アメリカ合衆国とソヴィエト社会主義共和国連邦，およびその同盟国の間で展開された，大規模な核軍拡競争をともなう政治的・軍事的対立をいう．……社会思想や文化的価値観までを含む，社会生活の多様な側面を巻き込んだ点にそれまでの単なる大国間の勢力圏争いとの相違があった」（丸善『科学史事典』564ページ）．米ソ両国では，夥しい量の研究資金，研究手段と研究者が核開発などに関連した諸分野に恒常的に注ぎ込まれた．アメリカにおける冷戦期科学，および，その前史とも言うべき第2次世界大戦期科学の経験については，これまでさまざまに論じられてきたが，ソ連のそれについて語られることは希であった．本講義では，その前史を含め，ソ連における科学発展を，おもにその社会的側面から辿ってゆく．その際，冷戦期における軍民両方の核開発を相対的な中心として論じたい．

[到達目標]

本講義を履修し，学修目的を達成した結果，“ソヴィエト・サイエンス”の歴史的経験の視点から現代科学がどのようにして形成されていったのか，現代科学史，ひいては現代史全般に関する理解をよりいっそう豊かにすることができる．

[授業計画と内容]

1．　ガイダンス：1998年の問い―“冷戦型科学・技術体制”は克服できるか？―
2．　ロシアの近代化と科学：サンクト=ペテルブルグ帝室科学アカデミー
3．　“科学の参謀本部”：ヴラジーミル・ヴェルナツキーとソ連邦科学アカデミー
4．　イデオロギーと科学：“優生学”，ナチズム，ルィセンコ“学説”
5．　原爆開発への道：原子核物理学の展開と各国における初期核開発
6．　ＰＤＣ(エル・デー・エス)…“ロシアは自力でやる！”：ソ連の初期核兵器開発
7．　“冷戦気候（Cold War Climate）”：動員される科学者，イデオロギー的圧迫
8．　核戦略の“トライアド”：ソ連におけるミサイル開発と原子力潜水艦建造
9．　放射能の影：「ビキニ事件」と米ソ“サイエンス・ウォー”
10．ソ連版“平和のための原子”：オブニンスク原子力発電所（1954年）
11．経済停滞とエネルギー危機：原子力発電所建設の疾走
12．東側の原子力：原子力分野における“同盟”諸国との“協力”
13．“越境するソヴィエト・サイエンス”：日本への影響
14．　帰結：チェルノブィリ原子力発電所，1986年4月26日午前１時23分
《定期試験》
15．フィードバック

現代史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

3回の小レポート（各20%），定期試験（40%）で成績評価をおこなう．受講生の本講義に取り組む姿勢（平常点）を加味する場合もある．

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
とりあえず，市川浩「第Ⅳ巻６: 科学――〝強大なソヴィエト連邦〟の背後に」（編集委員会［中嶋毅・浅岡善治］編『ロシア革命とソ連の世紀　第4巻：人間と文化の革新』岩波書店，2017年．177-199ページ）；市川 浩『ソ連核開発全史』（ちくま新書，2022年）を参考文献とする．その他参照してほしい文献は授業中に示す．

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に示す．

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学90

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1920年代初めの党の結成から抗日戦争―中華人民共和国樹立までの30年ほどの歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1920年前後の結党から1949年の中華人民共和国樹立に至る30年ほどの中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。中国共産党の結成、国共合作、北伐と国共合作の終焉、農村革命、中華ソヴィエト共和国、長征、抗日民族統一戦線、抗日戦争、延安整風運動、国共内戦とその帰趨、中国革命とソ連・コミンテルン
15回　中国革命と中国共産党について、総合討論を行う。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学91

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む（続）										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1949年の中華人民共和国樹立から2000年ごろまでの半世紀の歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで、党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1949年の中華人民共和国建国から2000年ごろに至る半世紀の中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。人民共和国建国と朝鮮戦争、過渡期の総路線と社会主義経済の建設、土地改革と農村、中国の計画経済、百家争鳴・百花斉放と反右派闘争、大躍進政策と大飢饉、文化大革命、林彪・四人組の失脚、華国鋒体勢、改革・開放政策と民主化運動、「歴史決議」と党の歴史認識。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多い。また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学92

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小野沢　透				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	アメリカ外交文書演習										

[授業の概要・目的]

現代史を考える上で，アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわりなく）きわめて重要である。さいわい，そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは，刊本などの形で公刊されており，比較的容易にアクセスできる。（これは，アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では，アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を，公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。

[到達目標]

・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し，自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。
・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。
・上記を通じて，一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。

[授業計画と内容]

下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションを読み進めていく。
Foreign Relations of the United States, 1952-1954, Volume 14, Part 2: China and Japan.
全15回の授業で，毎回，10ページをめどに読み進めていく。
具体的な授業の進め方や報告方法は，受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験は行わず，平常点で評価する。

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。
刊本は，文学部を含め，学内に複数の所蔵あり。アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を無料で入手可能。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進める。報告担当者は，当該箇所の全訳を作成する。受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学93

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　塩出　浩之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	日本近現代史研究精読（「戦後」を再考する）										

[授業の概要・目的]

日本近現代史の学術書を精読する。報告と討論を通じて、学術書の読み方や論点の見つけ方を身につけ、あわせて世界史の一部としての日本近現代史への理解を深める。

[到達目標]

・報告やレポートの執筆を通じて、学術書の内容を的確につかむ方法を身につける。
・報告や討論を通じて、学術書の読解から自分自身の論点を導き出す能力を養う。
・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。

[授業計画と内容]

第二次世界大戦後の世界と日本について、人々の「記憶」や「想像」という観点から再考する研究を精読する。授業は参加者の報告と討論によって進行する（全15回）。

以下は候補文献。変更・追加の可能性あり。
橋本明子『日本の長い戦後』みすず書房、2017年
林志弦（澤田克己訳）『犠牲者意識ナショナリズム：国境を超える「記憶」の戦争』東洋経済新報社、2022年
益田肇『人々のなかの冷戦世界：想像が現実となるとき』岩波書店、2021年

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告（40%）と平常点（40%）、レポート（20%）によって評価する。正当な理由のない欠席は減点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者は文献を入念に読解して要点をつかみ、また論点の提起を行うこと。
報告者以外の参加者も必ず、文献を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

初回のガイダンスで報告の分担を決めるので、必ず参加すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学94

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	国際日本文化研究センター 研究部 教授 松田　利彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	韓国語資料演習										

[授業の概要・目的]

朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、学術論文の読解や資料収集ができるようトレーニングをします。段階的に外国語の資料を使いこなす技術を身につけられるように、演習は大きく３つのパートに分かれています。
①研究テーマを探す＝近年の近代朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文（韓国語）を講読します。受講者には、関心に応じて、そこで紹介されている論文を選んでもらいます。
②研究テーマに関わる専門論文を入手する＝韓国語論文をインターネットで入手する方法を講義します。
③韓国語論文の読み方を学ぶ＝①で選んだ論文を実際に読んでいきます。論文に特徴的な表現を重点的に学ぶとともに、希望があれば、韓国語の新聞・雑誌記事、回想録などの一次史料を読むことも可能です。昨年度は、植民地期医学史に関わる論文、京城帝国大学で学んだ朝鮮人学生の回顧録などを読みました。

[到達目標]

１）　インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。
２）　韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。
３）　朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。

[授業計画と内容]

1回目　朝鮮近現代史についての概説
2～4回目　近年の近代朝鮮医学史研究の動向を理解できる概説的な論文の精読
5回目　韓国語の論文・資料の調べ方についての講義
6～15回目　受講者の関心に応じた専門論文・資料の講読

[履修要件]

韓国語の学習歴が求められます（受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します）。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的事件や資料の背景について自分で調べてもらってミニ報告をしてもらうこともあります。

現代史学(演習II)　(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II) (2)

[成績評価の方法・観点]

論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

[授業外学修（予習・復習）等]

2回目以降の講読・精読については予習を必須とします。担当箇所は割り当てますが、自分の担当以外の部分も予習してくる意欲があればなおよいです。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学95

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　小野寺　史郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国近現代史に関する文献の講読										

[授業の概要・目的]

近現代中国の歴史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。

[到達目標]

中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。

[授業計画と内容]

近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。
テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。
第1回　ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。
第2回　教員によるテキスト講読
第3-14回　受講者によるテキスト講読
第15回　フィードバック
また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。

[履修要件]

中国語を履修していることが望ましいが必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。

[教科書]

授業中に指示する
PandAに掲載する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学96

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　塩出　浩之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	日本近現代史演習										

[授業の概要・目的]

日本近現代史の一次史料を読む。史料の批判的読解という実践を通じて研究の基礎を身につけ、同時に日本近現代史への理解を深めるのが目的である。

[到達目標]

・史料の批判的読解に基づいて過去を再構成するという最も基礎的なトレーニングを通じて、日本近現代史研究の手法を体得する。
・過去への問いをもって史料を読み、入念な調査と考察を通じて、その問いを歴史学的な論点へと発展させられるようになる。
・史料から知ることができる過去は本来的に限られていることを理解し、史料から何が言えるか・言えないかを、根拠に基づいて論じられるようになる。
・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。

[授業計画と内容]

『胡桃沢盛日記』の一部を精読する。
同書は、1905年に長野県下伊那郡河野村の地主の家に生まれ、戦時中には村長も務めた胡桃沢盛が1923年から1946年まで記した日記である。河野村は1944年に「満洲国」への分村移民が行われた農村として知られる。本演習ではその背景も含め、当時の日本の社会状況や人々の意識について、この希有な史料から考察する。
過去の演習で第1巻-第3巻を読んでおり、今回は第4巻（1935-38）。
授業は参加者の報告と討論によって進行する(全15回)。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告（50%）と討論への参加状況（50%）によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者は入念な史料読解と、関連する先行研究・関連史料等の調査を経て報告を行うこと。
報告者以外の参加者も必ず、史料を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学97

科目ナンバリング	G-LET35 7M415 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授　　駒込　武				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	『鹿野政直思想史論集　第1巻大正デモクラシー・民間学』を読む										

[授業の概要・目的]

　学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。
　色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように綜合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。
　今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。

[到達目標]

・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。
・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。
・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。

[授業計画と内容]

今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。
第1回　オリエンテーション
第2回～第14回　鹿野政直著『福沢諭吉と福翁自伝』 (朝日撰書、1998年)を読む。
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での発言）（60%）
学期末レポート（40%）
〔評価方針〕
到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された文献を事前に読んでくることが「予習」としての意味を持つ。

（その他（オフィスアワー等））

・昨年度からの継続という性格をもつので、新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。テキストの入手方法についてそのときに指示する。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学98

科目ナンバリング	G-LET35 7M415 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授　　駒込　武				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	『鹿野政直思想史論集　第3巻沖縄1　占領下を生きる』を読む										

[授業の概要・目的]

　学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。
　色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように綜合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。
　今年度は、昨年度に引き続いて鹿野政直の仕事を読み直す。

[到達目標]

・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。
・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。
・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。

[授業計画と内容]

　昨年度に引き続いて、鹿野政直俊の著作を読む。
第1回　オリエンテーション
第2回～第14回　鹿野政直『沖縄の戦後思想を考える』(岩波現代文庫、2018年）を読む。
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での発言）（60%）
学期末レポート（40%）
〔評価方針〕
到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

現代史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された文献を事前に読んでくることが「予習」としての意味を持つ。

（その他（オフィスアワー等））

・昨年度からの継続という性格をもつので、新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学99

科目ナンバリング	G-LET35 78452 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習IIIA) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小野沢　透 文学研究科　教授　　塩出　浩之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	現代史研究の諸問題										

[授業の概要・目的]

演習IIIは、現代史学専修に所属する学部生（３、４回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。

授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。

また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。

[到達目標]

本演習に参加する大学院生は，よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで，より広い視野で研究対象を眺めることができ，自分の研究方法を点検するきっかけとなる。

[授業計画と内容]

セメスターの最初に，4月に大学院に進学した修士課程1回生が，自分の卒論をもとに研究発表を行う。（日程に余裕があれば，修士課程1回生以外の大学院生にも報告の機会を提供する。）

前期（演習IIIA）では，４回生（卒業予定者）はかならず1回，卒業論文の中間報告を行う。

前期（演習IIIA）では，３回生はかならず授業に参加し，可能な限り議論に参加する。

（全15回）

[履修要件]

現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点によって評価する。

[教科書]

使用しない

現代史学(演習IIIA)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習IIIA)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ，日々勉強を続けていなければ，よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて，自分の研究テーマをこえて，現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学100

科目ナンバリング	G-LET35 78452 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習IIIB) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小野沢　透 文学研究科　教授　　塩出　浩之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	現代史研究の諸問題										

[授業の概要・目的]

演習IIIは、現代史学専修に所属する学部生（３、４回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。

授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。

また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。

[到達目標]

この演習に参加する大学院生は，よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで，より広い視野で研究対象を眺めることができ，自分の研究方法を点検するきっかけとなる。

[授業計画と内容]

後期（演習IIIB）には，４回生（卒業予定者）はかならず1回，卒業論文の中間報告を行う。（通常授業では回数が足りぬことが多いため，11月祭期間中に補講を設定する。）

後期（演習IIIB）には，３回生にもかならず1回，報告の機会を設ける。研究上の関心を持っていることや卒業論文で取り上げたいと考えているテーマについて，１年間の研究成果を報告する。

大学院生は，学部生へのコメントや質問を通じて，みずからの研究上の考え方やスキルを向上させ，洗練させることを目指す。

（全15回）

[履修要件]

現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点によって評価する。

現代史学(演習IIIB)(2)へ続く↓↓↓

現代史学(演習IIIB)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ，日々勉強を続けていなければ，よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて，自分の研究テーマをこえて，現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学101

科目ナンバリング	G-LET35 7M412 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小野沢　透 文学研究科　教授　　塩出　浩之				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	大学院演習										

[授業の概要・目的]

修士論文および博士論文作成に向けて、①テーマの設定、②先行研究の評価、③立論、④文献・史料の実証的調査について、受講生が個別に報告する機会を設ける。報告をもとに、教員からの指導および受講生の集団ディスカッションを通じて、現代史に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。

[到達目標]

本演習に参加する大学院生は，それぞれ自分の研究テーマをもち，日々研究を続けていることを当然の前提としている。日々の研究成果は，それぞれの修士論文・博士論文として結実する。本演習は，研究成果の中間発表の場であり，自らの研究の到達点を客観視することを通じて次のステップを模索する重要な機会である。ここを通過することで，研究は着実に前進していく。修士課程の学生にとっては，修士論文の完成が到達目標であり，博士課程の学生については博士論文につながる学術論文の作成が到達目標となる。

[授業計画と内容]

各回とも、１名（場合によっては2名）の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、①研究の意義、②先行研究、③立論、④実証研究の進捗状況について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。
（全15回）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートで総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
なし

[授業外学修（予習・復習）等]

大学院生にとっては，毎日が研究の日々である。この演習は日々行われている研究の中間報告の場であって，この授業の予習や復習のために研究するのではない。

（その他（オフィスアワー等））

なし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。